

秋田大学
Akita University

国立大学法人 秋田大学

情報データ科学部

※仮称、設置構想中

デジタル社会で活躍する
ITエンジニア・データサイエンティストを育成

様々な分野で活躍できる人材育成の3つのポイント

- 1 情報技術やデータサイエンスを活用できる教育
- 2 社会課題を解決するための応用分野に関する教育
- 3 アントレプレナーシップを養う教育



～ 情報技術やデータサイエンスを活用し未来をつくろう ～

文系の方・理系の方ともに受験可能!

Akita University
Faculty of Informatics and Data Science

情報データ科学部に関するQ&A

Q1 文系出身でも情報学やデータサイエンスを学ぶことはできますか?

はい。情報学やデータサイエンスの基礎となるのは数学の知識ですが、本学部では文系出身で数学IIIを学んでいない方や、理系出身であっても苦手だった方向への「入門数学」という科目を用意しています。

本格的な情報系の学びを始める前に、数学の中で特に必要分野に重点を置いて短期的に学ぶことで、どんな方でもスムーズに専門教育に進むことができるカリキュラムとしています。

Q2 秋田大学の他に情報学やデータサイエンスを専門的に学べる大学はありますか?

日本で初めてデータサイエンスを中心とした学部を設置したのは滋賀大学(データサイエンス学部)でした。その後も全国に情報学やデータサイエンスを学べる類似の学部が設置されています。

一方、東北地方に目を向けると、私立大学では東北学院大学に情報学部があるものの、国立大学において独立した情報系の学部を設置している大学はまだありません。

本学部は、東北地方の国立大学において初の情報学・データサイエンス系の学部として、地域のデジタル化を推進できる、あるいは、日本の情報関連産業をけん引できる人材の育成を目指しています。

Q3 どのような資格などを取得できますか?

所定の科目を履修することで、高等学校教諭第一種免許状(情報)を取得することができます。また、ITに関する基本的な知識を証明できる国家試験(ITパスポート試験や基礎情報技術者試験など)にも挑戦することができます。

アドミッション・ポリシー(抜粋)

【知識・技能の評価】

(1)情報学・データサイエンスを学ぶために必要な数学や英語の基礎学力を身につけている。

【思考力・判断力・表現力】

(2)論理的に物事を考え、自身の考えを文章あるいは口頭で表現できる。

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】

(3)情報社会に深い関心と興味を持ち、社会課題の解決および新たな価値の創造に強い意欲を持っている。
(4)基本的なコミュニケーション力を備え、多様な考えや意見に耳を傾けて対話できる。

入学試験情報(予定)

情報データ科学部 情報データ科学科

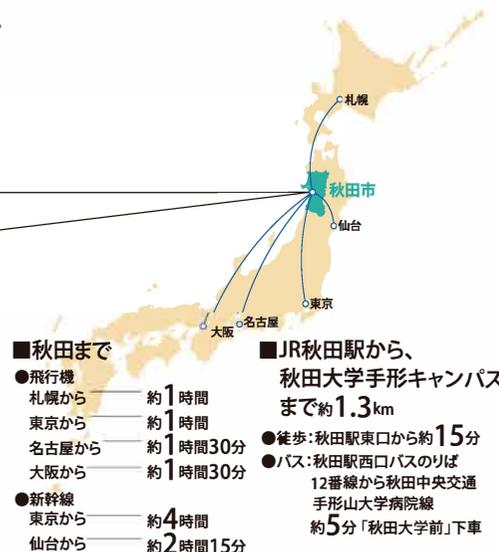
入学定員	一般選抜		特別入試	
	前期日程	後期日程	総合型選抜I	総合型選抜II
100名	60名	10名	20名	10名

学費情報(令和5年度現在)

入学料(予定額)	282,000円
授業料(予定額)	年額535,800円(半期267,900円)

※授業料の改訂が行われた場合には、改訂時から新しい授業料が適用されます。

アクセス



秋田大学 総務企画課 新学部設置・学部改組準備室

〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
Tel.018-889-2268 Fax.018-889-2219
E-mail: ds_somu@jimu.akita-u.ac.jp

2023年10月発行

※記載内容について、今後変更することもありますので、ご注意ください。

※記載内容について、今後変更することもありますので、ご注意ください。

設置の理念と養成する人材像

設置の理念

コンピュータ技術の発展により高度情報社会となりましたが、Society 5.0のような新たなデジタル社会を構築していくためには、世の中にあふれる様々な情報やデータを収集して分析し、社会課題を解決する新たな価値を創造できる「デジタル人材」が必要とされており、情報データ科学部では、以下のように養成する人材像を定めています。

養成する人材像

情報学とデータサイエンスを体系的に学び、身に付けた情報技術の知識とデータ解析スキルを活用して諸課題の解決を図り、新たな価値を創造し実装することができるデジタル人材を養成します。

情報データ科学部における学びの特色

情報データ科学部は、入学後に様々な科目を学び、知識や技能を身に付けていく中で、ITエンジニアやデータサイエンティストなどを目指すの、あるいは、大学院に進学してより専門性を高めるのをお選びできるよう「情報データ科学科」の1学科編成からなる教育課程で、以下の3つの学びの特色があります。

1 情報学・データサイエンスを体系的に学べる教育課程

情報学・データサイエンスに関する知識や技能を基礎から身に付けるため、入学時から体系的に学ぶことができる教育課程となっています。

2 情報学・データサイエンスを応用する科目を設定

本学部では、人を中心とする情報技術に関する「人間情報系」、人間の日常生活における動作支援に関する「知能ロボティクス系」、安全・安心な地域づくりに関する「防災・エネルギー情報系」の3つを、応用分野(研究対象)として科目群を設定し、学生の志向に合わせた教育を行います。

3 アントレプレナーシップの養成

アントレプレナーシップとは、急激な社会環境の変化を受容し、新たな価値を生み出す精神であり、デジタル社会PBL科目において、実践力を磨く教育を行います。

教育課程の概要

入学

高校での文理の区別によらず受験可能な入試を実施

1年次

教養基礎教育

【基礎教育科目】

- 基礎微積分学
- 基礎統計学 など

【教養教育科目】

- 初年次ゼミ
- 大学英語 など

※1~2年次で履修する科目
数学や幅広い教養を身に付ける

専門教育

1 情報学・データサイエンス基礎科目

【データサイエンス系】

- 基礎AI学
- 機械学習 など

【ネットワーク系】

- 情報セキュリティ
- IoTとネットワーク など

※1~3年次で履修する科目

【コンピュータサイエンス系】

- 基礎情報学
- Cプログラミング など

【人間情報系コア】

- ヒューマンコンピュータインタラクション など

3 デジタル社会PBL科目

【デジタル社会PBL】

- デジタル社会のプラクティス
- DXプロジェクト実践
- ベンチャービジネス論
- データサイエンスとマーケティング
- 地域経済とICTビジネス など

※1~3年次で履修する科目

2 情報学・データサイエンス応用科目 ※3年次で選択履修する科目群

【人間情報系】

- データサイエンスとオープンデータ
- 応用生体計測 など

【知能ロボティクス系】

- ロボット制御プログラミング
- 生体運動計測とデータサイエンス など

【防災・エネルギー情報系】

- 都市災害シミュレーション
- エネルギーとデータサイエンス など

卒業研究

【卒業研究】 ● 卒業研究課題 ● 研究プロポザル ※4年次で履修する科目

卒業後は、さらなる専門性を高める大学院進学 or 様々な分野におけるデジタル人材として活躍

ITエンジニア等

システムエンジニア等

防災システム等のデータサイエンティスト

官公庁・金融・観光等のデータサイエンティスト

大学院

IT業界で活躍しているOBからのメッセージ

平成27年3月修了 博士(工学)
村上 龍希さん (秋田県出身)
現 ヤフー株式会社
テラロググループサイエンス統括本部
在学中は、「感性情報を考慮した人物画像処理の開発に関する研究」に従事



※社名・所属は取材時点(2023年9月)のものです。

現在の職務内容について

私はヤフー株式会社でディスプレイ広告のサービス改善に従事しており、現在は予約型広告(掲載期間と表示回数を保証する広告)の在庫予測・配信計画システムや、組織内共有ツールの開発・運用をリードしています。「Yahoo! JAPAN」は、月間約830億のページビューと約8500万人のアクティブユーザーを誇り、大規模なユーザーデータを有しています。私の担当している広告を含むヤフーのサービスは、このビッグデータから新たな価値を創出しサービス改善に取り組んでいます。まさにデータサイエンスが仕事に直結していると言えます。

仕事のやりがい

とても多くの人々が私たちのサービスを利用しているため、サービスを止めることなく、常に内容を更新していくことに大きな責任を感じています。



一方で、サービス改善がインターネットユーザー、広告主、提携パートナーなど広い範囲に届けられていく様子には、大きな達成感があります。また、サービス改善につながる仮説を立て、データ分析による裏付けを行い、その仮説をもとに仕組みをアップデートする、という一連の過程を迅速に進めることもやりがいの一つです。

情報データ科学部で学ぼうとする方へのメッセージ

昨今の生成AIの登場により、手軽に機械学習を利用することが可能になったため、データサイエンスの門戸はますます広がっています。デジタル社会における課題は何か?どのようなデータをどのように活用して解決するのか?などの発想やアプローチの創出が求められています。情報データ科学部の学びは、まさに課題の解決に必要なデータ解析と新たな価値創出のスキルを身に付けられるため、この学部の卒業生は、新たなデジタル社会へ変わりつつある日本や世界の発展に大きく貢献できるでしょう。

情報学・データサイエンスを学ぶ学生からのメッセージ

(現)人間情報工学コース学部4年次
宮古 菜々さん (秋田県出身)
(研究分野)
感性の計測・評価、カラーマネジメント、
ヒューマンインタフェース
「CAPTCHAへの適用を目的とした
ディスプレイ表示色の認識範囲解析」



(現)人間情報工学コース大学院2年次
田村 智一さん (福島県出身)
(研究分野)
位置情報サービス、データサイエンス、
時空間情報分析、情報工学、モバイルマーケティング
「GPSログデータのクラスタリングによる滞在場所の検出と
ジオフェンスの自動生成」



情報学はどんな学問ですか?

情報学とは、デジタル技術を用いて人の暮らしを豊かにする学問です。私たちが想像する近未来を創る技術について学び、開発にも携われるという面白さがあります。例えば、人間の生体情報を数値化して医療・福祉に役立てたり、AIを使うことで単調で大変な仕事を自動化したりすることができます。

私は、スマートフォンなどの画面に表示される色の感じ方を解析する研究を行っています。Webページの入力フォームで人間による入力であることを確かめるために、歪んだ文字の画像(CAPTCHA)が表示されることがありますが、この画像の文字に色を付けて、人間にだけ正解を伝えられる仕組みを考えています。

将来の夢(就きたい仕事)などは?

これまで一緒に扱われてこなかったコトやモノを繋ぎ合わせて新しい技術を開発することが私の目標です。機械がどれだけ賢くなったとしても、それを生み出し、利用するのは人です。デジタル化していく社会の中で、「人が使いやすいもの」を模索していきたいと考えています。

秋田大学のおすすめポイント&アドバイスを!

秋田大学では、人間社会に密接に関わる情報学を学ぶことができます。机上の空論で終わるのではなく、今学んでいることが社会でどのように役に立っているのかを、実感できる機会が多いと感じています。

プログラミングができなくても大丈夫です!私は、大学に入学してから初めてプログラミングに触れましたが、今では研究で利用できる程に上達しました。人の暮らしを豊かにするデジタル社会を夢に描き、情報データ科学部で最新の情報技術を学んでみませんか?

データサイエンスはどんな学問ですか?

データサイエンスとは、大量のデータから有益な情報を得る手法について学ぶ学問です。収集された大量のデータを可視化することで傾向を把握したり、未来の需給を予測したりすることができます。私の研究では、スマートフォンの各種センサー(GPS、加速度センサーなど)から取得したログデータを時空間的に分析し、ユーザがどんな場所に興味を持っているかを調査することで、観光アプリなどのサービス向上を目指しています。

将来の夢(就きたい仕事)などは?

人々の暮らしを便利にするアプリやシステムの開発に携わりたいと考えています。現在研究で開発しているプログラムでは、新しい機能を追加する際に様々な部分に変更が生じる点を課題と感じています。こういった、機能の拡張性やアップデートへの保守性を意識した設計について習得し、長期に渡って利用されるものを作るエンジニアになりたいです。

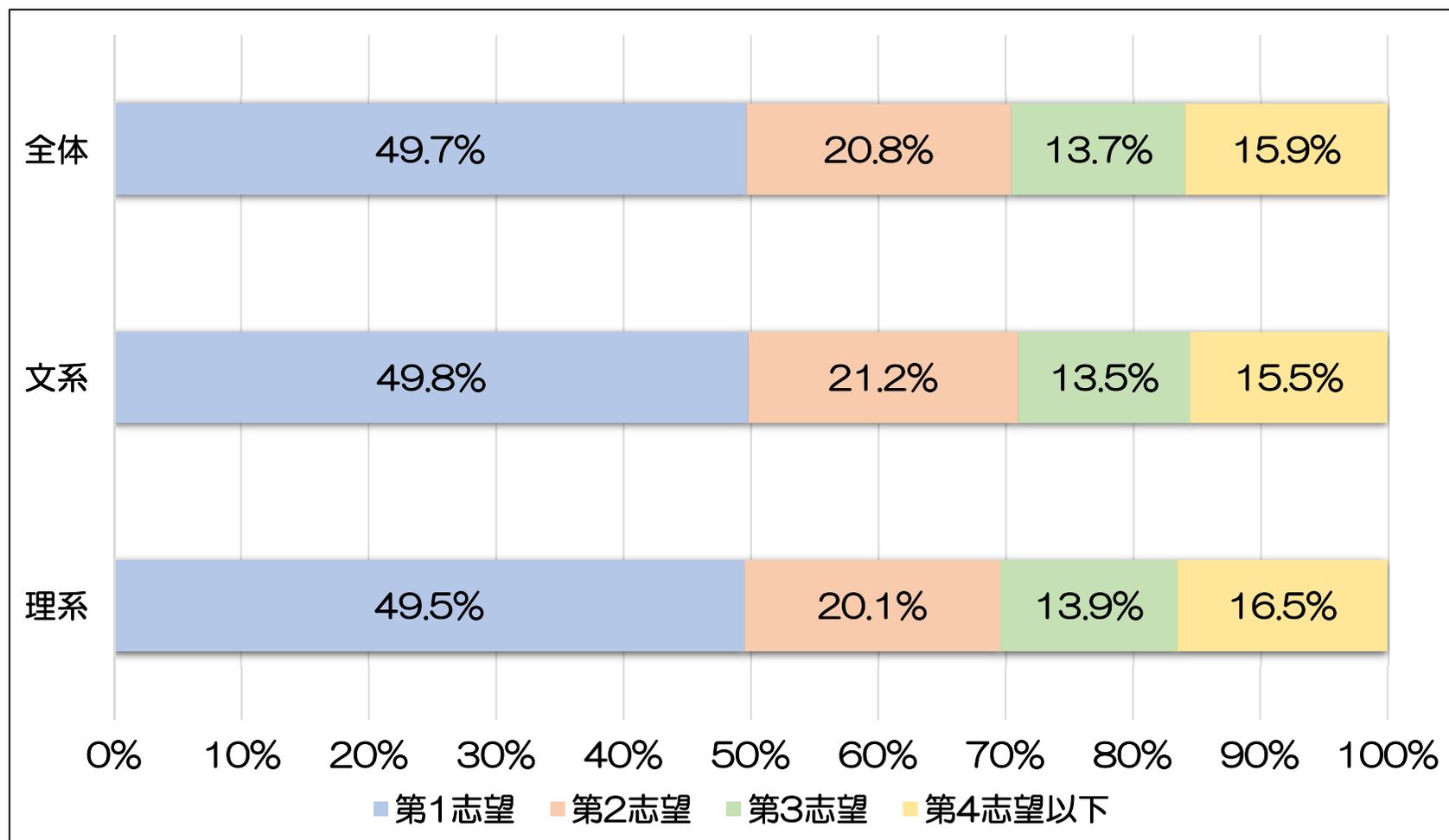
秋田大学のおすすめポイント&アドバイスを!

秋田大学ではコンピュータの原理やプログラミングだけではなく、人間を中心としたシステムの重要性についても学ぶことができます。高速に動作するのも大切ですが、どのくらい処理が進んでいるかをユーザに知らせることで安心感を与えるのも良いシステムの一要件と言えます。

デジタル社会の実現に向け、大量のデータを活用する重要性が飛躍的に高まっています。講義や演習を通して身近なアプリの仕組みや利用されているデータサイエンスとデータエンジニアリングを学習し、課題解決のためのシステムが作れるようになります。是非、情報データ科学部で学び、高いデータ解析・活用スキルを身に付けてください。

入学した大学・学部・学科の志望順位（受験時何番目の志望だったか）

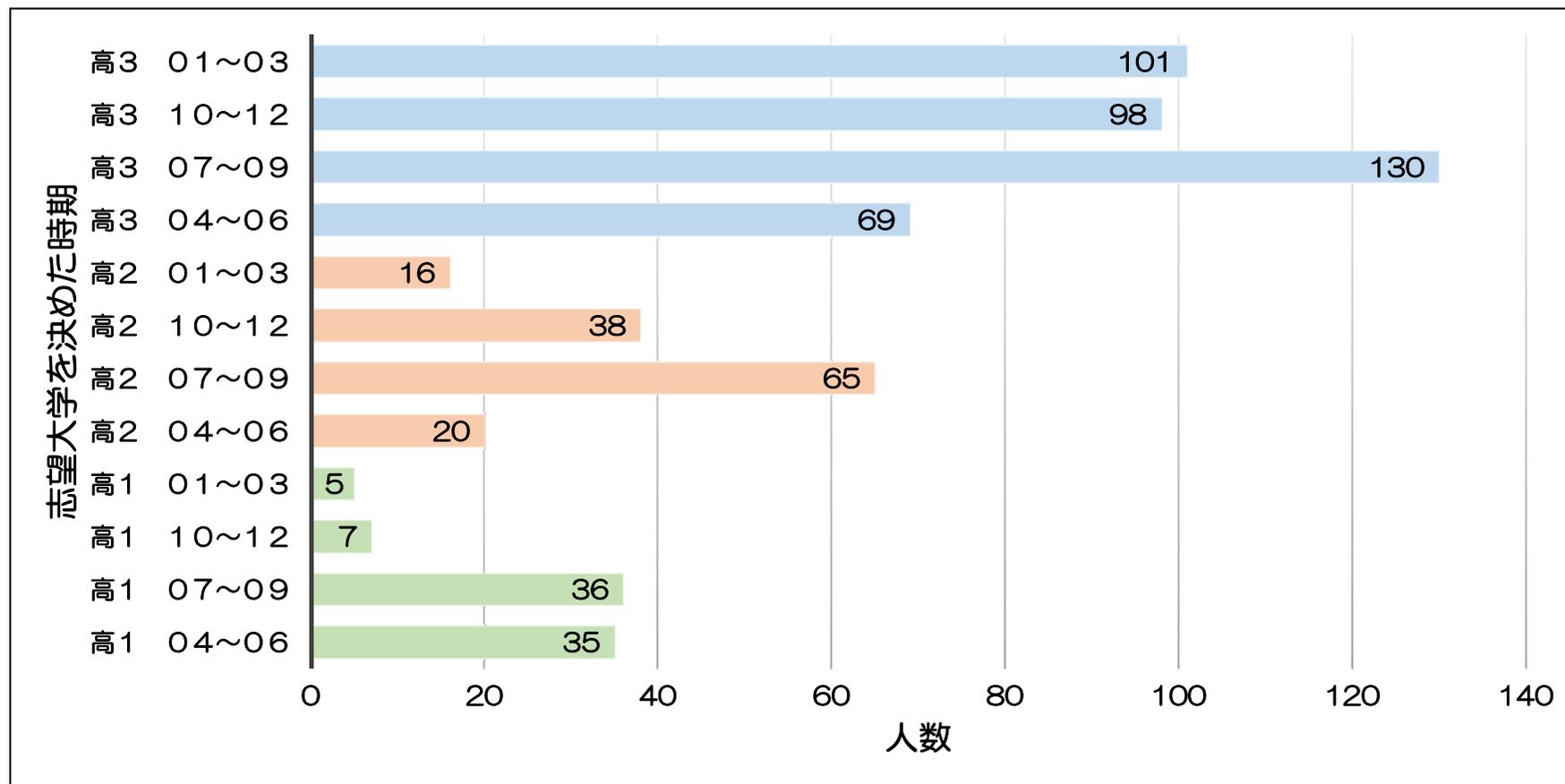
回答者の約50%は第1志望の大学へ入学しているが、残り約50%は第2志望以下の大学に入学していることがわかる。



※出典：https://www.disc.co.jp/wp/wp-content/uploads/2018/03/DaigakuShingaku_Shushoku_report_201803.pdf
キャリアス進学 キャリタス就職「大学進学と就職に関する調査」（株式会社ディスコ）

高校生が志望大学を決めた時期について

志望大学を決めた時期について、部活引退後の夏休み前後にあたる「高3の7～9月」が最も多く、次に多いのがセンター試験の結果を受けて最終的な出願先を決める「高3の1～3月」であることがわかる。



※出典：<https://benesse.jp/juken/201703/20170301-1.html>
高校生が志望大を決めた時期はいつぐらい？（ベネッセ教育総合研究所）

秋田大学理工学部を受験を最終的に決めた時期について

表より、高校2年生で受験を決めた者が14名（5.8%）であったのに対して、高校3年生の共通テスト前後に決めた者が166名（68.5%）であったことがわかる。

入学年度	2021年度		2022年度		2023年度		平均	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
高校1年生以前	1	0.4%	1	0.4%	1	0.5%	1	0.4%
高校1年生	4	1.6%	5	2.0%	1	0.5%	3	1.4%
高校2年生	18	7.0%	12	4.7%	12	5.5%	14	5.8%
高校3年生（共通テスト前）	77	30.1%	79	31.2%	61	28.0%	72	29.8%
高校3年生（共通テスト後）	101	39.5%	94	37.2%	86	39.4%	94	38.7%
高校卒業後（共通テスト前）	4	1.6%	2	0.8%	4	1.8%	3	1.4%
高校卒業後（共通テスト後）	44	17.2%	54	21.3%	49	22.5%	49	20.2%
その他	7	2.7%	6	2.4%	4	1.8%	6	2.3%
合計	256		253		218		242	

※出典：秋田大学理工学部入学時アンケート結果（2021～2023年度）の抜粋

秋田大学
「情報データ科学部」「総合環境理工学部」
(いずれも仮称)設置・改組に関するニーズ調査
結果報告書
【企業対象調査】

令和6年2月
株式会社 進研アド

© Shinken-Ad. Co., Ltd. All Rights Reserved.

1. 調査目的

2025年4月予定の秋田大学「情報データ科学部」「総合環境理工学部」(いずれも仮称)の設置・改組構想に関して、企業からの採用ニーズを把握する。

2. 調査概要

		企業対象調査
調査対象		企業の採用担当者
調査エリア		北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、長野県、岐阜県、静岡県、山梨県、愛知県、大阪府、京都府、兵庫県、岡山県、山口県、愛媛県、福岡県、熊本県、大分県
調査方法		郵送調査
調査対象数	依頼数	1,100企業
	回収数(回収率)	458企業(41.6%)
調査時期		2023年11月6日(月)～2023年12月1日(金)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

企業対象調査

- ・人事採用への関与度
- ・本社所在地
- ・業種
- ・正規社員の従業員数
- ・正規社員の平均採用人数
- ・本年度の採用予定数
- ・採用したい学問分野
- ・秋田大学「情報データ科学部」「総合環境理工学部」の特色に対する魅力度
- ・秋田大学「情報データ科学部」「総合環境理工学部」の社会的必要性
- ・秋田大学「情報データ科学部」「総合環境理工学部」卒業生に対する採用意向
- ・秋田大学「情報データ科学部」「総合環境理工学部」卒業生に対する毎年の採用想定人数

採用意向調査 調査結果

※報告書内の表中の%の母数は、
特に断りがない場合、回答企業全体(458企業)

回答企業(回答者)の属性

※本調査は、秋田大学「情報データ科学部」「総合環境理工学部」に対する人材需要を確認するための調査として設計。秋田大学の卒業生就職先として想定される企業の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、458企業から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は23.6%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が64.6%と、採用や選考にかかわっている人事担当者から意見を聴取できていると考えられる。
- 回答企業の本社(本部)所在地は、秋田大学の所在地である「秋田県」が22.7%と最も多く、次いで「東京都」が17.7%、「北海道」が12.4%と続く。
- 回答企業の業種としては「製造業」が28.2%で最も多い。次いで「建設業」が22.3%、「情報通信業」が17.2%と続く。
- 回答企業の正規社員の従業員数は、「100名～500名未満」が42.1%と最も多く、次いで「50名未満」が17.5%、「50名～100名未満」が16.2%と続く。100名以上の比較的規模が大きい企業が6割以上を占める。

回答企業の採用状況(過去3か年平均)／ 本年度の採用予定数／採用したい学問分野

- 回答企業の平均的な正規社員の採用人数は「1名～5名未満」が39.3%と最も多く、次いで「5名～10名未満」「10名～20名未満」がいずれも18.3%と続く。毎年正規社員を採用している企業がほとんどである。
- 回答企業の本年度の採用予定数は、「昨年度並み」が60.9%と最も多く、次いで「増やす」が29.5%である。回答企業の多くで昨年以上の採用が予定されている模様である。
- 回答企業の採用したい学問分野を複数回答で聞いたところ、各学科の学びと関連する学問分野は以下の通り。

情報学、データサイエンス:41.3% (「情報データ科学科」関連学科)

化学:14.8% (「応用化学生物学科」関連学科)

生物学(生命科学など):8.1% (「応用化学生物学科」関連学科)

数学, 物理学, 地学:16.8% (「環境数物科学科」関連学科)

電子制御・ロボット工学:31.0% (「情報データ科学科」関連学科)

電気通信工学(電力, モータ, 電気電子機器, 電子材料工学など):34.5%
(「環境数物科学科」「社会システム工学科」関連学科)

機械工学, 土木建築工学, 金属工学:53.1%
(「社会システム工学科」関連学科)

応用化学(先端材料(理)工学など):17.0%
(「応用化学生物学科」「環境数物科学科」関連学科)

環境学:15.3%
(「応用化学生物学科」「環境数物科学科」「社会システム工学科」関連学科)

防災システム学:9.6% (「情報データ科学科」「社会システム工学科」関連学科)

回答企業(回答者)の属性、採用状況等

■人事採用への関与度

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)

	標本数	かあ採 かりの決 わつ選考 つて裁権 てにが	かな採 かいはの決 わがわつ選 つて考裁 るに権は	提意か採 供見かを するをら る収集ず 立集、情 場、報 に、接 あるや	無 回 答
上段:% 下段:件数(企業)					
全体	458	23.6 108	64.6 296	9.6 44	2.2 10

■本社(本部)所在地

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

	標本数	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
上段:% 下段:件数(企業)															
全体	458	12.4 57	7.2 33	8.5 39	10.7 49	22.7 104	6.1 28	4.8 22	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.4 2	0.2 1	17.7 81	2.4 11

	標本数	新潟県	石川県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	大阪府	兵庫県	岡山県	広島県	愛媛県	福岡県	無回答
上段:% 下段:件数(企業)														
全体	458	0.4 2	0.2 1	0.7 3	0.2 1	0.2 1	0.9 4	1.5 7	0.4 2	0.4 2	0.2 1	0.2 1	0.4 2	0.2 1

■業種

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

	標本数	建設業	製造業	電気・ガス・水道業	情報通信業	金融・保険業	不動産業	卸売・小売業	飲食店・宿泊業
上段:% 下段:件数(企業)									
全体	458	22.3 102	28.2 129	1.7 8	17.2 79	2.0 9	1.1 5	5.7 26	0.0 0

	標本数	運輸業	鉱業・林・漁業	複合サービス業	サービス業	公務	医療・福祉	その他	無回答
上段:% 下段:件数(企業)									
全体	458	0.4 2	0.2 1	1.1 5	6.6 30	5.9 27	2.0 9	5.2 24	0.4 2

回答企業(回答者)の属性、採用状況等

■正規社員の従業員数

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	5 0 名 未 満	1 5 0 0 名 名 未 満	5 1 0 0 名 名 未 満	未 満 1 5 0 0 名 名 未 満	5 1 0 0 名 名 未 満	5 0 0 0 名 名 未 満	5 0 0 0 名 以上	無 回 答
上段:% 下段:件数(企業)									
全体	458	17.5 80	16.2 74	42.1 193	9.0 41	12.4 57	2.8 13	0.0 0	

■正規社員の平均採用人数

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	0 名	5 1 名 名 未 満	1 5 0 名 名 未 満	2 1 0 0 名 名 未 満	3 2 0 0 名 名 未 満	5 3 0 0 名 名 未 満	1 5 0 0 名 名 未 満	1 0 0 名 以上	無 回 答
上段:% 下段:件数(企業)										
全体	458	0.4 2	39.3 180	18.3 84	18.3 84	7.9 36	3.7 17	6.6 30	5.5 25	0.0 0

■本年度の採用予定数

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	増 や す	昨 年 度 並 み	減 ら す	未 定	無 回 答
上段:% 下段:件数(企業)						
全体	458	29.5 135	60.9 279	3.9 18	5.5 25	0.2 1

■採用したい学問分野

Q7. 貴社・貴団体では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。
(あてはまる番号すべてに○)

	標本数	情報学、データサイエンス	化学	生物学（生命科学など）	数学・物理学・地学	電子制御・ロボット工学	電気通信工学（電力、モータ、電気電子機器、電子材料工学など）	機械工学・土木建築工学、金属工学	応用化学（先端材料（理）工学など）	環境学
上段：% 下段：件数（企業）										
全体	458	41.3 189	14.8 68	8.1 37	16.8 77	31.0 142	34.5 158	53.1 243	17.0 78	15.3 70

	標本数	防災システム学	人文科学（文学、史学など）	社会科学（法学、経済学など）	農学（林学、水産学など）	保健（医学、薬学、看護学など）	その他	学んだ学問分野にはこだわらない	無回答
上段：% 下段：件数（企業）									
全体	458	9.6 44	7.0 32	13.3 61	8.5 39	4.4 20	3.1 14	22.7 104	0.0 0

秋田大学「情報データ科学部」「総合環境理工学部」の特色に対する魅力度

「情報データ科学部」の特色に対する魅力度(※)は、4つの項目すべてで9割を超える。

- 最も魅力度が高いのは、「D.アントレプレナーシップ(急激な社会環境の変化を受容し、新たな価値を生み出す精神)を育むため、課題解決型授業を通じて実践力を磨きます。」で94.8%である。次いで「B.1年次から、情報学やデータサイエンスを体系的に学び、情報技術の活用やデータ解析スキルを身に付けます。」が93.4%と続く。

「総合環境理工学部」の特色に対する魅力度(※)は、4つの項目すべてで8割を超える。

- 最も魅力度が高いのは、「H.専門性が異なる人と共創できる能力を育むため分野横断教育を強化し、他者と協調して総合的に課題を解決できる人材を養成します。」で96.3%である。次いで「F.時代のニーズに合わせた専門分野の深掘りを行うと同時に、時代の変化に影響されない理工学の基礎的学問体系を教授し、応用力のある人材を養成します。」が95.6%と続く。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業の合計値

秋田大学「情報データ科学部」「総合環境理工学部」 の特色に対する魅力度

■秋田大学「情報データ科学部」「総合環境理工学部」の特色に対する魅力度

Q8. 秋田大学「情報データ科学部」(仮称)は、情報技術の知識とデータ解析スキルを活用して社会課題を解決し、新たな価値を創造できるデジタル人材育成をめざしています。また、「総合環境理工学部」(仮称)は、環境問題に関連した科学技術に関する教育を強化し、理工学に関する確かな専門性を身に付け、分野横断的な幅広い視野を持ち、他者と協調して課題を解決できる人材の育成をめざしています。各学部において以下のような特色のある教育課程を編成する予定ですが、貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

特色A.【情報データ科学部】情報データ科学部では、入学後に様々な科目を学びながら、ITエンジニア、あるいは、データサイエンティスト等をめざすのかの将来の進路を選択することができます。

特色B.【情報データ科学部】1年次から、情報学やデータサイエンスを体系的に学び、情報技術の活用やデータ解析スキルを身に付けます。

特色C.【情報データ科学部】3年次からは、情報学やデータサイエンスを活用し社会課題を解決するための人間情報系、知能ロボティクス系、防災・エネルギー情報系の応用分野を志向に合わせて選択し、専門性を身に付けます。

特色D.【情報データ科学部】アントレプレナーシップ(急激な社会環境の変化を受容し、新たな価値を生み出す精神)を育むため、課題解決型授業を通じて実践力を磨きます。

特色E.【総合環境理工学部】グリーン社会実現に向けた先端科学技術に関する知識、専門分野にデジタル技術を活用できる基礎知識・技術を教授します。

特色F.【総合環境理工学部】時代のニーズに合わせた専門分野の深掘りを行うと同時に、時代の変化に影響されない理工学の基礎的学問体系を教授し、応用力のある人材を養成します。

特色G.【総合環境理工学部】「応用化学生物学科」「環境数物科学科」「社会システム工学科」の3学科体制とし、それぞれの学科に配置する専門教育プログラムにより、高い専門性を涵養します。

特色H.【総合環境理工学部】専門性が異なる人と共創できる能力を育むため分野横断教育を強化し、他者と協調して総合的に課題を解決できる人材を養成します。

秋田大学「情報データ科学部」「総合環境理工学部」 の特色に対する魅力度

上段:% 下段:件数(企業)		標 本 数	魅 と も を 感 じ る	魅 あ る 程 度 を 感 じ る	魅 あ ま り を 感 じ な い	魅 ま つ た く を 感 じ な い	魅 力 度 (※)	無 回 答
情報データ科 学部	特色A	458	37.8 173	53.5 245	6.8 31	0.9 4	91.3 418	1.1 5
	特色B	458	43.4 199	50.0 229	4.8 22	0.9 4	93.4 428	0.9 4
	特色C	458	42.1 193	50.7 232	5.5 25	0.7 3	92.8 425	1.1 5
	特色D	458	48.5 222	46.3 212	3.5 16	0.9 4	94.8 434	0.9 4
総合環境 理工学部	特色E	458	34.9 160	57.9 265	5.9 27	0.4 2	92.8 425	0.9 4
	特色F	458	47.4 217	48.3 221	2.8 13	0.7 3	95.6 438	0.9 4
	特色G	458	37.3 171	52.4 240	8.7 40	0.7 3	89.7 411	0.9 4
	特色H	458	54.1 248	42.1 193	2.2 10	0.7 3	96.3 441	0.9 4

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業の合計値

※魅力度は、件数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

秋田大学「情報データ科学部 情報データ科学科」の 社会的必要性

- 「情報データ科学部 情報データ科学科」について「必要だと思う」と回答した企業は97.6% (447企業) であり、多くの企業がこれからの社会にとって必要な学部・学科と捉えていることがうかがえる。

秋田大学「情報データ科学部 情報データ科学科」卒業生の 採用意向/毎年の採用想定人数

- 「情報データ科学部 情報データ科学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業は86.0% (394企業) であり、予定している入学定員数100名を上回る数の採用意向がみられた。
- 「情報データ科学部 情報データ科学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業へ、「情報データ科学部 情報データ科学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は625名で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

秋田大学「情報データ科学部 情報データ科学科」 の社会的必要性/採用意向/採用想定人数

■秋田大学「情報データ科学部 情報データ科学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、秋田大学「情報データ科学部」(仮称)、「総合環境理工学部」(仮称)の各学科は、これからの社会にとって必要だと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段:% 下段:件数(企業)	標本数	必要だと思 う	必要だと思 わない	無回答
全体	458	97.6 447	2.0 9	0.4 2

■秋田大学「情報データ科学部 情報データ科学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、秋田大学「情報データ科学部」(仮称)、「総合環境理工学部」(仮称)の各学科を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段:% 下段:件数(企業)	標本数	採用したいと思 う	採用したいと思 わない	無回答
全体	458	86.0 394	12.0 55	2.0 9



「採用したいと思う」と答えた394企業のみ抽出

■秋田大学「情報データ科学部 情報データ科学科」卒業生に対する毎年の採用想定人数

Q11. Q10でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、
毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ~ 9名	10名 以上	計 (※ -)	
		全体	394	% 62.9%	21.6%	6.9%	2.3%		2.5%
		企業数	248	85	27	9	10	4	625
		名	248	170	81	36	50	40	

※%の母数は、「情報データ科学部 情報データ科学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業(394企業)

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名~9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

**秋田大学「総合環境理工学部 応用化学生物学科」の
社会的必要性**

- 「総合環境理工学部 応用化学生物学科」について「必要だと思う」と回答した企業は95.2% (436企業)であり、多くの企業がこれからの社会にとって必要な学部・学科と捉えていることがうかがえる。

**秋田大学「総合環境理工学部 応用化学生物学科」卒業生の
採用意向/毎年の採用想定人数**

- 「総合環境理工学部 応用化学生物学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業は62.9% (288企業)であり、予定している入学定員数100名を上回る数の採用意向がみられた。
- 「総合環境理工学部 応用化学生物学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業へ、「総合環境理工学部 応用化学生物学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は424名で、予定している入学定員数を4倍以上上回っている。

このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

秋田大学「総合環境理工学部 応用化学生物学科」 の社会的必要性/採用意向/採用想定人数

■秋田大学「総合環境理工学部 応用化学生物学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、秋田大学「情報データ科学部」(仮称)、「総合環境理工学部」(仮称)の各学科は、これからの社会にとって必要だと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段:% 下段:件数(企業)	標本数	必要だと思 う	必要だと思 わない	無回答
全体	458	95.2 436	4.1 19	0.7 3

■秋田大学「総合環境理工学部 応用化学生物学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、秋田大学「情報データ科学部」(仮称)、「総合環境理工学部」(仮称)の各学科を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段:% 下段:件数(企業)	標本数	採用したいと思 う	採用したいと思 わない	無回答
全体	458	62.9 288	33.6 154	3.5 16



「採用したいと思う」と答えた288企業のみ抽出

■秋田大学「総合環境理工学部 応用化学生物学科」卒業生に対する毎年の採用想定人数

Q11. Q10でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ~ 9名	10名 以上
			全体	288	%	68.1%	17.7%	5.9%
		企業数	196	51	17	5	5	3
		名	196	102	51	20	25	30

⇒

計 (※)	お よ し の 採 用 企 業 数 ・ 採 用 想 定 人 数 ・ 計 人 数
	277
	424

※%の母数は、「総合環境理工学部 応用化学生物学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業(288企業)

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名~9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

**秋田大学「総合環境理工学部 環境数物科学科」の
社会的必要性**

- 「総合環境理工学部 環境数物科学科」について「必要だと思う」と回答した企業は96.7% (443企業) であり、多くの企業がこれからの社会にとって必要な学部・学科と捉えていることがうかがえる。

**秋田大学「総合環境理工学部 環境数物科学科」卒業生の
採用意向/毎年の採用想定人数**

- 「総合環境理工学部 環境数物科学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業は69.4% (318企業) であり、予定している入学定員数90名を上回る数の採用意向がみられた。
- 「総合環境理工学部 環境数物科学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業へ、「総合環境理工学部 環境数物科学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は470名で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

秋田大学「総合環境理工学部 環境数物科学科」 の社会的必要性/採用意向/採用想定人数

■秋田大学「総合環境理工学部 環境数物科学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、秋田大学「情報データ科学部」(仮称)、「総合環境理工学部」(仮称)の各学科は、これからの社会にとって必要だと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段:% 下段:件数(企業)	標本数	必要だと思 う	必要だと思 わない	無回答
全体	458	96.7 443	2.4 11	0.9 4

■秋田大学「総合環境理工学部 環境数物科学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、秋田大学「情報データ科学部」(仮称)、「総合環境理工学部」(仮称)の各学科を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段:% 下段:件数(企業)	標本数	採用したいと思 う	採用したいと思 わない	無回答
全体	458	69.4 318	27.3 125	3.3 15



「採用したいと思う」と答えた318企業のみ抽出

■秋田大学「総合環境理工学部 環境数物科学科」卒業生に対する毎年の採用想定人数

Q11. Q10でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、
毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ~ 9名	10名 以上	計 (※ お示 し年 の採 用企 業採 用想 定人 数計 ・ 人数 を)							
		%	企業数	名	%	企業数	名		%						
全体	318	67.0%	213	213	19.2%	61	6.3%	20	1.6%	5	1.6%	5	0.9%	3	⇒
			213	122	60	20	25	30							
															470

※%の母数は、「総合環境理工学部 環境数物科学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業(318企業)

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名~9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

**秋田大学「総合環境理工学部 社会システム工学科」の
社会的必要性**

- 「総合環境理工学部 社会システム工学科」について「必要だと思う」と回答した企業は96.9% (444企業)であり、多くの企業がこれからの社会にとって必要な学部・学科と捉えていることがうかがえる。

**秋田大学「総合環境理工学部 社会システム工学科」卒業生の
採用意向/毎年の採用想定人数**

- 「総合環境理工学部 社会システム工学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業は82.1% (376企業)であり、予定している入学定員数125名を上回る数の採用意向がみられた。
- 「総合環境理工学部 社会システム工学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業へ、「総合環境理工学部 社会システム工学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は614名で、予定している入学定員数を4倍以上上回っている。

このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

秋田大学「総合環境理工学部 社会システム工 学科」の社会的必要性/採用意向/採用想定人数

■秋田大学「総合環境理工学部 社会システム工学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、秋田大学「情報データ科学部」(仮称)、「総合環境理工学部」(仮称)の各学科は、これからの社会にとって必要だと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段:% 下段:件数(企業)	標本数	必要だと思 う	必要だと思 わない	無回答
全体	458	96.9 444	2.4 11	0.7 3

■秋田大学「総合環境理工学部 社会システム工学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、秋田大学「情報データ科学部」(仮称)、「総合環境理工学部」(仮称)の各学科を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段:% 下段:件数(企業)	標本数	採用したいと思 う	採用したいと思 わない	無回答
全体	458	82.1 376	15.5 71	2.4 11



「採用したいと思う」と答えた376企業のみ抽出

■秋田大学「総合環境理工学部 社会システム工学科」卒業生に対する毎年の採用想定人数

Q11. Q10でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ~ 9名	10名 以上	計 (※ お示 の採 用企 業 数・ 計 人 数・ 毎 年の 採用 想定 人数 を 算出)	
		%	企業数	名	名	名	名		
全体	376	%	61.7%	21.8%	7.2%	2.1%	2.9%	⇒	
		企業数	232	82	27	8	11		365
		名	232	164	81	32	55		614

※%の母数は、「総合環境理工学部 社会システム工学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業(376企業)

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名~9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

卷末資料 調査票



秋田大学「情報データ科学部」(仮称、設置構想中)、 「総合環境理工学部」(仮称)に関するアンケート

秋田大学では2025年(令和7年)4月に、「情報データ科学部」(仮称)の新設と「総合環境理工学部」(仮称)の改組を構想しています。
このアンケートは採用ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、より充実した大学や学部・学科にするための参考資料とさせていただきます。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※ このアンケートや同封した資料に記載されている「情報データ科学部」(仮称、設置構想中)、「総合環境理工学部」(仮称)に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
2. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
3. 採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集、提供する立場にある

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

本社(本部)所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|------------------|--------------|--------------|
| 1. 建設業 | 6. 不動産業 | 11. 複合サービス事業 |
| 2. 製造業 | 7. 卸売・小売業 | 12. サービス業 |
| 3. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 8. 飲食店・宿泊業 | 13. 公務 |
| 4. 情報通信業 | 9. 運輸業 | 14. 医療・福祉 |
| 5. 金融・保険業 | 10. 農・林・漁・鉱業 | 15. その他 |

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|---------------|------------------|--------------------|
| 1. 50名未満 | 3. 100名～500名未満 | 5. 1,000名～5,000名未満 |
| 2. 50名～100名未満 | 4. 500名～1,000名未満 | 6. 5,000名以上 |

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|-------------|--------------|---------------|
| 1. 0名 | 4. 10名～20名未満 | 7. 50名～100名未満 |
| 2. 1名～5名未満 | 5. 20名～30名未満 | 8. 100名以上 |
| 3. 5名～10名未満 | 6. 30名～50名未満 | |

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

1. 増やす
2. 昨年度並み
3. 減らす
4. 未定

Q7. 貴社・貴団体では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。

(あてはまる番号すべてに○)

- | | | |
|-----------------|------------------------------------------------------|-------------------------|
| 1. 情報学、データサイエンス | 6. 電気通信工学
<small>(電力、モータ、電気電子機器、電子材料工学など)</small> | 12. 社会科学(法学、経済学など) |
| 2. 化学 | 7. 機械工学、土木建築工学、金属工学 | 13. 農学(林学、水産学など) |
| 3. 生物学(生命科学など) | 8. 応用化学(先端材料(理)工学など) | 14. 保健(医学、薬学、看護学など) |
| 4. 数学、物理学、地学 | 9. 環境学 | 15. その他 |
| 5. 電子制御・ロボット工学 | 10. 防災システム学 | 16. 学んだ学問分野には
こだわらない |
| | 11. 人文科学(文学、史学など) | |

裏面へ続く→

調査票

秋田大学では、2025年(令和7年)4月に、「情報データ科学部」(仮称)の新設、「総合環境理工学部」(仮称)の改組を構想しています。

※ここからは、アンケートに同封している資料をご覧くださいの上で答えください※

- Q8. 秋田大学「情報データ科学部」(仮称)は、情報技術の知識とデータ解析スキルを活用して社会課題を解決し、新たな価値を創造できるデジタル人材育成をめざしています。また、「総合環境理工学部」(仮称)は、環境問題に関連した科学技術に関する教育を強化し、理工学に関する確かな専門性を身に付け、分野横断的な幅広い視野を持ち、他者と協調して課題を解決できる人材の育成をめざしています。各学部において以下のような特色のある教育課程を編成する予定ですが、貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
例. ○○である。		→ 1	○ 2	3	4
情報データ科学部	A. 情報データ科学部では、入学後に様々な科目を学びながら、ITエンジニア、あるいは、データサイエンティスト等をめざすのかの将来の進路を選択することができます。	→ 1	2	3	4
	B. 1年次から、情報学やデータサイエンスを体系的に学び、情報技術の活用やデータ解析スキルを身に付けます。	→ 1	2	3	4
	C. 3年次からは、情報学やデータサイエンスを活用し社会課題を解決するための人間情報系、知能ロボティクス系、防災・エネルギー情報系の応用分野を志向に合わせて選択し、専門性を身に付けます。	→ 1	2	3	4
	D.アントレプレナーシップ(急激な社会環境の変化を受容し、新たな価値を生み出す精神)を育むため、課題解決型授業を通じて実践力を磨きます。	→ 1	2	3	4
総合環境理工学部	E. グリーン社会実現に向けた先端科学技術に関する知識、専門分野にデジタル技術を活用できる基礎知識・技術を教授します。	→ 1	2	3	4
	F. 時代のニーズに合わせた専門分野の深掘りを行うと同時に、時代の変化に影響されない理工学の基礎的学問体系を教授し、応用力のある人材を養成します。	→ 1	2	3	4
	G. 「応用化学生物学科」「環境数物科学科」「社会システム工学科」の3学科体制とし、それぞれの学科に配置する専門教育プログラムにより、高い専門性を涵養します。	→ 1	2	3	4
	H. 専門性が異なる人と共創できる能力を育むため分野横断教育を強化し、他者と協調して総合的に課題を解決できる人材を養成します。	→ 1	2	3	4

- Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、秋田大学「情報データ科学部」(仮称)、「総合環境理工学部」(仮称)の各学科は、これからの社会にとって必要だと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1. 必要だと思う	2. 必要だと思わない
情報データ科学部	情報データ科学科	→ 1	2
総合環境理工学部	応用化学生物学科	→ 1	2
	環境数物科学科	→ 1	2
	社会システム工学科	→ 1	2

- Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、秋田大学「情報データ科学部」(仮称)、「総合環境理工学部」(仮称)の各学科を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1. 採用したいと思う	2. 採用したいと思わない
情報データ科学部	情報データ科学科	→ 1	2
総合環境理工学部	応用化学生物学科	→ 1	2
	環境数物科学科	→ 1	2
	社会システム工学科	→ 1	2

- Q11. Q10でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1名	2名	3名	4名	5名～9名	10名以上
情報データ科学部	情報データ科学科	→ 1	2	3	4	5	6
総合環境理工学部	応用化学生物学科	→ 1	2	3	4	5	6
	環境数物科学科	→ 1	2	3	4	5	6
	社会システム工学科	→ 1	2	3	4	5	6

～質問は以上です。ご協力ありがとうございました。～

2025年
4月開設



国立大学法人 秋田大学 情報データ科学部

※仮称、設置構想中

デジタル社会で活躍する
ITエンジニア・データサイエンティストを育成

様々な分野で活躍できる人材育成の3つのポイント

①

情報技術やデータサイエンスを
活用できる教育

②

社会課題を解決するための
応用分野に関する教育

③

アントレプレナーシップを
養う教育

～ 情報技術やデータサイエンスを活用し未来をつくろう ～

文系の方・理系の方ともに受験可能!

Akita University
Faculty of Informatics and Data Science

※記載内容について、今後変更することもありますので、ご注意ください。

情報データ科学部に関するQ&A

Q1 文系出身でも情報学やデータサイエンスを学ぶことはできますか?

はい。情報学やデータサイエンスの基盤となるのは数学の知識ですが、本学部では文系出身で数学IIIを学んでいない方や、理系出身であっても苦手だった方向けの「入門数学」という科目を用意しています。

本格的な情報系の学びを始める前に、数学の中で特に必要な分野に重点を置いて短期的に学ぶことで、どんな方でもスムーズに専門教育に進むことができるカリキュラムとしています。

Q2 秋田大学の他に情報学やデータサイエンスを専門的に学べる大学はありますか?

日本で初めてデータサイエンスを中心とした学部を設置したのは滋賀大学(データサイエンス学部)でした。その後も全国に情報学やデータサイエンスを学べる類似の学部が設置されています。

一方、東北地方に目を向けると、私立大学では東北学院大学に情報学部があるものの、国立大学において独立した情報系の学部を設置している大学はまだありません。

本学部は、東北地方の国立大学において初の情報学・データサイエンス系の学部として、地域のデジタル化を推進できる、あるいは、日本の情報関連産業をけん引できる人材の育成を目指しています。

Q3 どのような資格などを取得できますか?

所定の科目を履修することで、高等学校教諭第一種免許状(情報)を取得することができます。また、ITに関する基本的な知識を証明できる国家試験(ITパスポート試験や基礎情報技術者試験など)にも挑戦することができます。

アドミッション・ポリシー(抜粋)

【知識・技能の評価】

(1) 情報学・データサイエンスを学ぶために必要な数学や英語の基礎学力を身につけている。

【思考力・判断力・表現力】

(2) 論理的に物事を考え、自身の考えを文章あるいは口頭で表現できる。

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】

(3) 情報社会に深い関心と興味を持ち、社会課題の解決および新たな価値の創造に強い意欲を持っている。

(4) 基本的なコミュニケーション力を備え、多様な考えや意見に耳を傾けて対話できる。

入学試験情報(予定)

情報データ科学部 情報データ科学科

入学定員	一般選抜		特別入試	
	前期日程	後期日程	総合選抜I	総合選抜II
100名	60名	10名	20名	10名

学費情報(令和5年度現在)

入学料(予定額)	282,000円
授業料(予定額)	年額535,800円(半期267,900円)

※授業料の改訂が行われた場合には、改訂時から新しい授業料が適用されます。

アクセス



■秋田まで

- 飛行機
札幌から 約1時間
東京から 約1時間
名古屋から 約1時間30分
大阪から 約1時間30分
- 新幹線
東京から 約4時間
仙台から 約2時間15分

■JR秋田駅から、秋田大学手形キャンパスまで約1.3km

- 徒歩: 秋田駅東口から約15分
- バス: 秋田駅西口バスのりば12番線から秋田中央交通手形山大学病院線 約5分「秋田大学前」下車

秋田大学 総務企画課 新学部設置・学部改組準備室

〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
Tel.018-889-2268 Fax.018-889-2219
E-mail: ds_somu@jimu.akita-u.ac.jp

2023年10月発行

※記載内容について、今後変更することもありますので、ご注意ください。

設置の理念と養成する人材像

設置の理念

コンピュータ技術の発展により高度情報社会となりましたが、Society 5.0のような新たなデジタル社会を構築していくためには、世の中にあふれる様々な情報やデータを収集して分析し、社会課題を解決する新たな価値を創造できる「デジタル人材」が必要とされており、情報データ科学部では、以下のように養成する人材像を定めています。

養成する人材像

情報学とデータサイエンスを体系的に学び、身に付けた情報技術の知識とデータ解析スキルを活用して諸課題の解決を図り、新たな価値を創造し実装することができるデジタル人材を養成します。

情報データ科学部における学びの特色

情報データ科学部は、入学後に様々な科目を学び、知識や技能を身に付けていく中で、ITエンジニアやデータサイエンティストなどを目指すの、あるいは、大学院に進学してより専門性を高めるのかわを選択できるよう「情報データ科学科」の1学科編成からなる教育課程で、以下の3つの学びの特色があります。

1 情報学・データサイエンスを体系的に学べる教育課程

情報学・データサイエンスに関する知識や技能を基礎から身に付けるため、入学時から体系的に学ぶことができる教育課程となっています。

2 情報学・データサイエンスを応用する科目を設定

本学部では、人を中心とする情報技術に関する「人間情報系」、人間の日常生活における動作支援に関する「知能ロボティクス系」、安全・安心な地域づくりに関する「防災・エネルギー情報系」の3つを、応用分野(研究対象)として科目群を設定し、学生の志向に合わせた教育を行います。

3 アントレプレナーシップの養成

アントレプレナーシップとは、急激な社会環境の変化を受容し、新たな価値を生み出す精神であり、デジタル社会PBL科目において、実践力を磨く教育を行います。

教育課程の概要

入学

高校での文理の区別によらず受験可能な入試を実施

1年次

2年次

3年次

4年次

卒業

教養基礎教育	専門教育		
【基礎教育科目】 ● 基礎微積分学 ● 基礎統計学 など 【教養教育科目】 ● 初年次ゼミ ● 大学英語 など ※1~2年次で履修する科目 数学や幅広い教養を身に付ける	1 情報学・データサイエンス基礎科目	2 情報学・データサイエンス応用科目 ※3年次で選択履修する科目群	3 デジタル社会PBL科目
	【データサイエンス系】 ● 基礎AI学 ● 機械学習 など 【ネットワーク系】 ● 情報セキュリティ ● IoTとネットワーク など ※1~3年次で履修する科目	【人間情報系】 ● データサイエンスとオープンデータ ● 応用生体計測 など 【知能ロボティクス系】 ● ロボット制御プログラミング ● 生体運動計測とデータサイエンス など 【防災・エネルギー情報系】 ● 都市災害シミュレーション ● エネルギーとデータサイエンス など	【コンピュータサイエンス系】 ● 基礎情報学 ● Cプログラミング など 【人間情報系コア】 ● ヒューマンコンピュータインタラクション など 【デジタル社会PBL】 ● デジタル社会のプラクティス ● DXプロジェクト実践 ● ベンチャービジネス論 ● データサイエンスとマーケティング ● 地域経済とICTビジネス など ※1~3年次で履修する科目
	卒業研究 【卒業研究】 ● 卒業研究課題 ● 研究プロポザル ※4年次で履修する科目		

卒業後は、さらなる専門性を高める大学院進学 or 様々な分野におけるデジタル人材として活躍

ITエンジニア等

システムエンジニア等

防災システム等のデータサイエンティスト

官公庁・金融・観光等のデータサイエンティスト

大学院

IT業界で活躍しているOBからのメッセージ

平成27年3月修了 博士(工学)
 村上 龍希さん (秋田県出身)
 現 ヤフー株式会社
 デジタルユーザーサイエンス統括本部
 在学中は、「感性情報を考慮した人物画像処理の開発に関する研究」に従事
 ※社名・所属は取材時点(2023年9月)のものです。



現在の職務内容について

私はヤフー株式会社でディスプレイ広告のサービス改善に従事しており、現在は予約型広告(掲載期間と表示回数を保証する広告)の在庫予測・配信計画システムや、組織内共有ツールの開発・運用をリードしています。「Yahoo! JAPAN」は、月間約830億のページビューと約8500万人のアクティブユーザーを誇り、大規模なユーザーデータを有しています。私の担当している広告を含むヤフーのサービスは、このビッグデータから新たな価値を創出しサービス改善に取り組んでいます。まさにデータサイエンスが仕事に直結していると言えます。

仕事のやりがい

とても多くの人々が私たちのサービスを利用しているため、サービスを止めることなく、常に内容を更新していくことに大きな責任を感じています。



一方で、サービス改善がインターネットユーザー、広告主、提携パートナーなど広い範囲に届けられていく様子には、大きな達成感があります。また、サービス改善につながる仮説を立て、データ分析による裏付けを行い、その仮説をもとに仕組みをアップデートする、という一連の過程を迅速に進めることもやりがいの一つです。

情報データ科学部で学ぼうとする方へのメッセージ

昨今の生成AIの登場により、手軽に機械学習を利用することが可能になったため、データサイエンスの門戸はますます広がっています。デジタル社会における課題は何か?どのようなデータをどのように活用して解決するのか?などの発想やアプローチの創出が求められています。情報データ科学部の学びは、まさに課題の解決に必要なデータ解析と新たな価値創出のスキルを身に付けられるため、この学部の卒業生は、新たなデジタル社会へ変わりつつある日本や世界の発展に大きく貢献できるでしょう。

情報学・データサイエンスを学ぶ学生からのメッセージ

(現)人間情報工学コース学部4年次
 宮古 菜々さん (秋田県出身)
 (研究分野)
 感性の計測・評価、カラーマネジメント、
 ヒューマンインタフェース
 「CAPTCHAへの適用を目的とした
 ディスプレイ表示色名の認識範囲解析」



情報学はどんな学問ですか?

情報学とは、デジタル技術を用いて人の暮らしを豊かにする学問です。私たちが想像する近未来を創る技術について学び、開発にも携われるという面白さがあります。例えば、人間の生体情報を数値化して医療・福祉に役立てたり、AIを使うことで単調で大変な仕事を自動化したりすることができます。

私は、スマートフォンなどの画面に表示される色の感じ方を解析する研究を行っています。Webページの入力フォームで人間による入力であることを確かめるために、歪んだ文字の画像(CAPTCHA)が表示されることがありますが、この画像の文字に色を付けて、人間にだけ正解を伝えられる仕組みを考えています。

将来の夢(就きたい仕事)などは?

これまで一緒に扱われてこなかったコトやモノを繋ぎ合わせて新しい技術を開発することが私の目標です。機械がどれだけ賢くなったとしても、それを生み出し、利用するのは人です。デジタル化していく社会の中で、「人が使いやすいもの」を模索していきたいと考えています。

秋田大学のおすすめポイント&アドバイスを!

秋田大学では、人間社会に密接に関わる情報学を学ぶことができます。机上の空論で終わるのではなく、今学んでいることが社会でどのように役に立っているのかを、実感できる機会が多いと感じています。

プログラミングができなくても大丈夫です!私は、大学に入学してから初めてプログラミングに触れましたが、今では研究で利用できる程に上達しました。人の暮らしを豊かにするデジタル社会を夢に描き、情報データ科学部で最新の情報技術を学んでみませんか?

(現)人間情報工学コース大学院2年次
 田村 智一さん (福島県出身)
 (研究分野)
 位置情報サービス、データサイエンス、
 時空間情報分析、情報工学、モバイルマーケティング
 「GPSログデータのクラスタリングによる滞在場所の検出とジオフェンスの自動生成」



データサイエンスはどんな学問ですか?

データサイエンスとは、大量のデータから有益な情報を得る手法について学ぶ学問です。収集された大量のデータを可視化することで傾向を把握したり、未来の需給を予測したりすることができます。私の研究では、スマートフォンの各種センサー(GPS、加速度センサーなど)から取得したログデータを時空間的に分析し、ユーザがどんな場所に興味を持っているかを調査することで、観光アプリなどのサービス向上を目指しています。

将来の夢(就きたい仕事)などは?

人々の暮らしを便利にするアプリやシステムの開発に携わりたいと考えています。現在研究で開発しているプログラムでは、新しい機能を追加する際に様々な部分に変更が生じる点を課題と感じています。こういった、機能の拡張性やアップデートへの保守性を意識した設計について習得し、長期に渡って利用されるものを作るエンジニアになりたいです。

秋田大学のおすすめポイント&アドバイスを!

秋田大学ではコンピュータの原理やプログラミングだけではなく、人間を中心としたシステムの重要性についても学ぶことができます。高速に動作するのも大切ですが、どのくらい処理が進んでいるかをユーザに知らせることで安心感を与えるのも良いシステムの一要件と言えます。

デジタル社会の実現に向け、大量のデータを活用する重要性が飛躍的に高まっています。講義や演習を通して身近なアプリの仕組みや利用されているデータサイエンスとデータエンジニアリングを学習し、課題解決のためのシステムが作れるようになります。是非、情報データ科学部で学び、高いデータ解析・活用スキルを身に付けてください。

アドミッション・ポリシー(抜粋)

育てる人間像

理工学に関する高い専門性を身に付け、かつ、他者と共創して柔軟で総合的に課題を解決していける人材を養成します。自然環境や環境技術について正しい知識を身に付け、科学技術による環境問題の解決に貢献できる人材を育成します。

求める人物像

- ① 科学技術を学ぶために必要な基礎学力を身につけた人
- ② グリーン社会の実現やデジタル技術の活用に興味があり、積極的に自己学習のできる人
- ③ 研究者や技術者として世界や地域の発展に貢献する意欲を持つ人

入学試験情報(予定)

学 科	入学定員	一般選抜		特別入試
		前期日程	後期日程	総合型選抜
応用化学生物学科	100名			
環境数物科学科	90名			
社会システム理工学科	125名	検討中		検討中
計	315名			

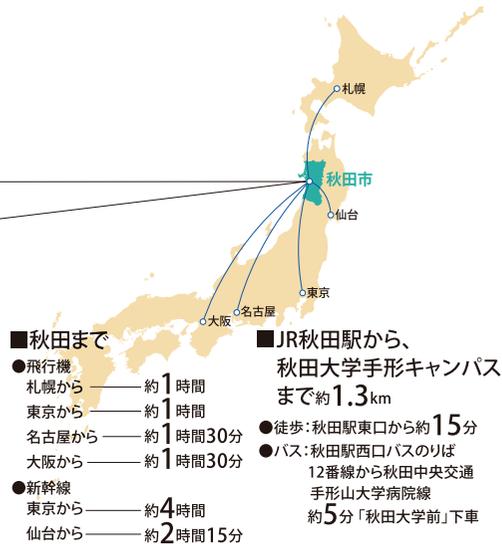
※学科別入試(総合型、前期、後期)を実施し、入試科目は数学(数Ⅲを含む)、理科(物理、化学、生物から選択)を予定しています。

学費情報(令和5年度現在)

入学料(予定額)	282,000円	授業料(予定額)	年額535,800円(半期267,900円)
----------	----------	----------	------------------------

※授業料の改訂が行われた場合には、改訂時から新しい授業料が適用されます。

アクセス



秋田大学 大学院理工学研究科

総務担当

〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
Tel.018-889-2305 Fax.018-889-2300
E-mail: koso@jimu.akita-u.ac.jp

令和5年10月時点情報



秋田大学 理工学部は 「総合環境理工学部」へ (仮称)

生まれ変わります

2025年(令和7年)4月



地球規模での環境問題に対する科学技術の役割は時代とともに大きくなってきています。また、「一人ひとりが多様な幸せを実現できる社会」が求められるようになっており、これを実現するには様々な専門性をもつ人々が集い、協力して社会の諸課題に対応を図っていくことが必要です。

現在の理工学部を改組して設置する総合環境理工学部(仮称)は、理工学の基礎と応用を総合的に学ぶことができるように4学科8コースを3学科に統合するとともに、グリーン社会実現に関連した科学技術分野の教育研究を強化します。確かな専門性を身に付け、専門分野にデジタル技術を活用する能力や異なる専門分野を理解して協力できる能力を育み、新しい時代で活躍できる人材を養成します。

※「グリーン社会」とは、2020年当時の菅総理大臣の臨時国会での所信表明演説の中で、経済と環境の好循環を成長戦略の柱とし、脱炭素化と経済成長を両立する社会として使われた言葉です。これを実現する人材が「グリーン人材」です。

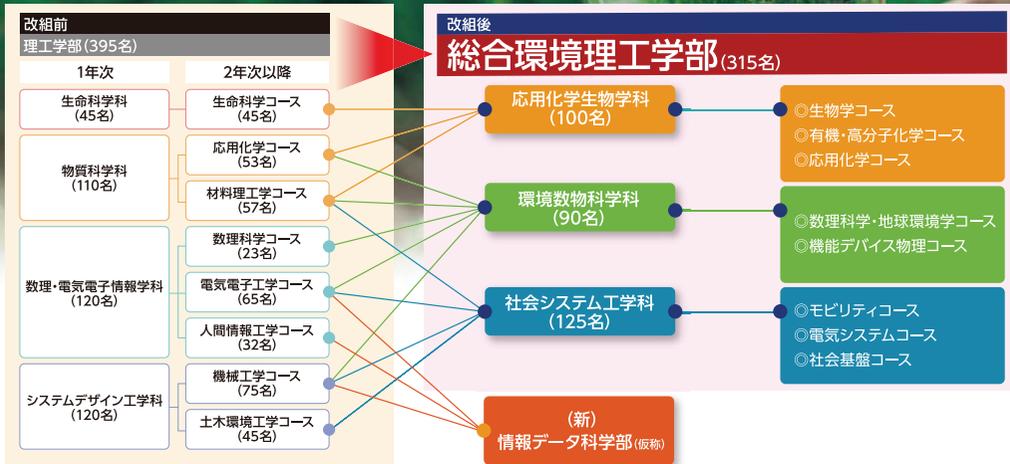
※現時点での構想であり、変更があります。新学部名称・学科名称等は全て仮称です。

※現時点での構想であり、変更があります。新学部名称・学科名称等は全て仮称です。

2023年10月発行

学部改組の概要

- ◎グリーン社会の実現とデジタル技術に関連した教育と研究を強化します。
- ◎既存の「4学科8コース体制」から「3学科体制」に再編します。



教育課程の概要

- ◎1年次～2年次前期には教養基礎科目や「総合環境理工学教育科目」(学科横断的な必修科目)を履修し、2年次後期からは各コースの専門性の高い科目を履修します。
- ◎他学科の科目も学んでもらい、グリーン社会の実現に関して分野横断的に幅広い知識を学修します。
- ◎数理・データサイエンス・AI教育を必修化し、自らの専門性にデジタル技術を活用できる能力を身に付けます。
- ◎4年次には、3年次までに学修した専門とグリーン社会との関わりについて調査・発表したり、修得した知識を活用して卒業課題研究を行うことで、総合的に課題を解決できる能力を養います。

応用化学生物学科



化学と生物学を学び両方の知識を使いこなし、グリーン社会の実現に貢献できる人材を養成します。人の健康を支える製薬業や医療機器関連企業、および脱炭素社会に向けて変革する化学関連企業などで科学技術者として活躍できます。

生物学コース

化学と生物学分野の基礎と分子生物学、細胞生物学、生理学、生物化学工学などの生物学の専門分野を学び、人間の健康維持や自然環境の保全およびバイオ生産などの諸課題に化学と生物学を総合した観点と高度なバイオ技術で取り組むことができる人材を養成します。

有機・高分子化学コース

化学と生物学分野の基礎と有機化学、高分子化学、生化学、有機材料科学などの複合専門分野を学び、医薬品や農薬および化学素材の製造業、食品産業、検査・分析機関などの現場で化学と生物学を総合した観点と複合専門技術で貢献できる人材を養成します。

応用化学コース

化学と生物学分野の基礎と無機材料科学、電気化学、反応工学、エネルギー変換材料科学などの化学の専門分野を学び、クリーンエネルギーの創出や環境浄化および脱炭素社会の実現などの諸課題に化学と生物学を総合した観点と高度な化学技術で取り組むことができる人材を養成します。

想定される就職先

- ◎製薬関連
- ◎環境関連
- ◎医療機器関連
- ◎化学関連
- ◎食品関連

環境数物科学科



自然と共生し環境へのリスクを大幅に減少させながらも経済成長を続けるグリーン社会の実現に取り組む人材を育成します。自然科学の3つの分野またはエレクトロニクス・材料科学の深い専門性を身に付けると同時にデジタル技術にも詳しい研究者・技術者として世界に羽ばたいていきます。

数理学・地球環境学コース

自然科学の3つの分野を専門として、数学の分野では方程式、関数、図形や空間の理論、物理学の分野では量子科学、地球科学の分野では地球環境の仕組みや構成する物質をそれぞれ学びます。自然の摂理から学び社会に貢献できるデータサイエンティスト、技術者を養成します。

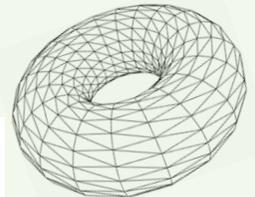
機能デバイス物理コース

電子系の分野では物理法則をデバイスに応用する技術、素材・材料系の分野ではその機能を向上させるもしくは新しい機能を創出する技術を学びます。持続可能社会の実現に貢献する環境負荷の小さい高性能情報通信関連デバイスおよびそれに用いる素材・材料の知識を身に付けた技術者を養成します。



想定される就職先

- ◎情報通信関連
- ◎金融関連
- ◎情報通信関連
- ◎教員・公務員
- ◎半導体・電子部品関連



社会システム工学科



生活に不可欠な航空機や自動車などのモビリティ、それを構成する素材、脱炭素に寄与する電気システム、人とまちをまもる社会基盤、それらを専門的に深く学べます。持続可能で豊かな未来社会を築く技術者になることができます。

モビリティコース

次世代の飛行機、鉄道、自動車、その他の移動体など、新しいモビリティ開発に貢献できる人材を養成します。機械工学の基礎をなす四力学に加え、材料科学・工学の専門知識を総動員して、サステナブルな社会実現に資する先進モビリティの設計・開発に貢献できる技術者・研究者を養成します。

電気システムコース

電気システム分野の専門知識を活用し、環境対応技術を進歩させ、持続可能な社会システムの構築に貢献できる人材を養成します。輸送機およびそれら関連電気機器の製造開発、エネルギーインフラおよび再生可能エネルギー導入に関連する事業、電気電子情報通信に関連する製造・サービス業などに有為な人材を養成します。

社会基盤コース

環境に配慮し災害に強い道路や河川・港湾、橋梁などの社会基盤の構築と、それに基づいた強靱で持続可能な地域社会の実現に貢献できる人材を養成します。地球規模での環境倫理観をもち、すべてのひとにとって安全・安心・便利となる地域社会システムの設計、さらにその維持管理に貢献できる技術者・研究者を養成します。

想定される就職先

- ◎航空機関連
- ◎自動車関連
- ◎電力・再エネ関連
- ◎建設関連
- ◎素材関連
- ◎技術系公務員



秋田県内企業のデジタル人材に関するアンケート調査



国立大学法人 秋田大学
令和5年11月

県内企業へのアンケート調査概要

1. 調査目的

情報系新学部の秋田県内企業の需要や人材ニーズを把握し、設置構想の参考・補強資料とするため、アンケート調査を実施する。

2. 調査概要

調査対象 秋田県内企業の採用担当者

- ・秋田県情報産業協会会員企業 46社
- ・秋田県デジタルイノベーション推進コンソーシアム会員団体 255社
- ・秋田県誘致企業 31社

※実企業数305社

回答数 62社（回答率20.3%）

調査方法 Microsoft Forms によるWEBアンケート調査

調査期間 令和5年7月31日～8月28日

3. 調査項目

- (1) 基本情報（回答企業等の属性）
- (2) 企業の採用状況・採用意向
- (3) デジタル人材に求める能力
- (4) DXやデジタル化への取組状況
- (5) 秋田大学情報系学部に期待すること

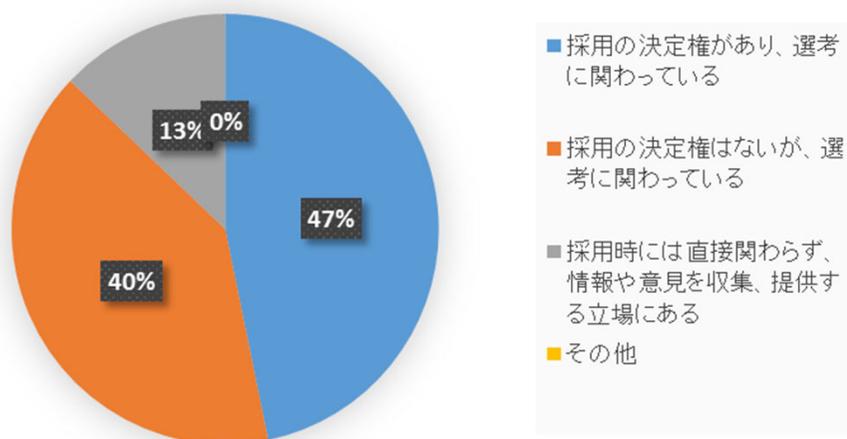
調査結果概要①

(1) 基本情報（回答企業等の属性）

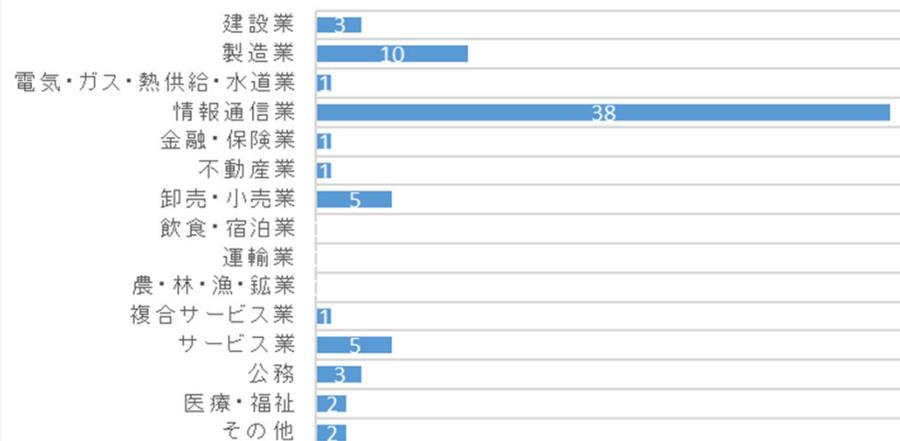
1) 回答者（企業）の人事採用への関与度（設問3）は、「採用の決定権があり、選考に関わっている」と「採用の決定権はないが、選考に関わっている」の合算が54件（87.1%）であり、選考活動に関わっている者からの回答が9割弱を占めていた。

2) 回答者（企業）の業種（設問4）は、情報通信業が38件（61.3%）と大半を占めており、本学部のメインターゲットとなる情報技術を活用している業種を中心に調査を実施している。

人事採用への関与度



企業の業種



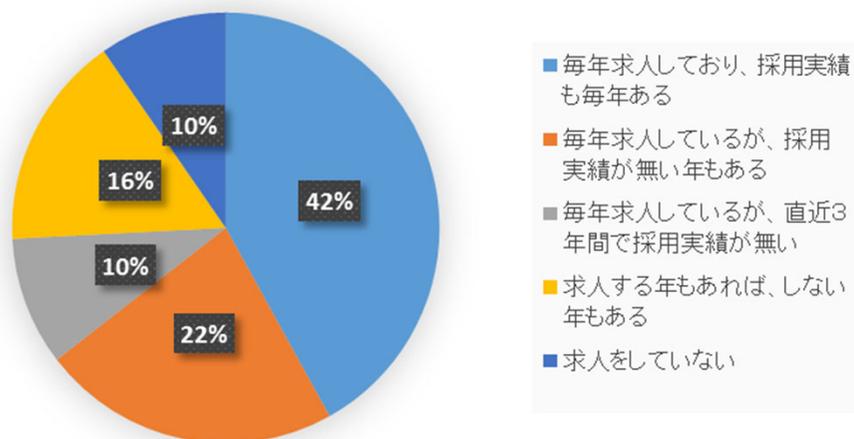
調査結果概要②

(2) 企業の採用状況・採用意向

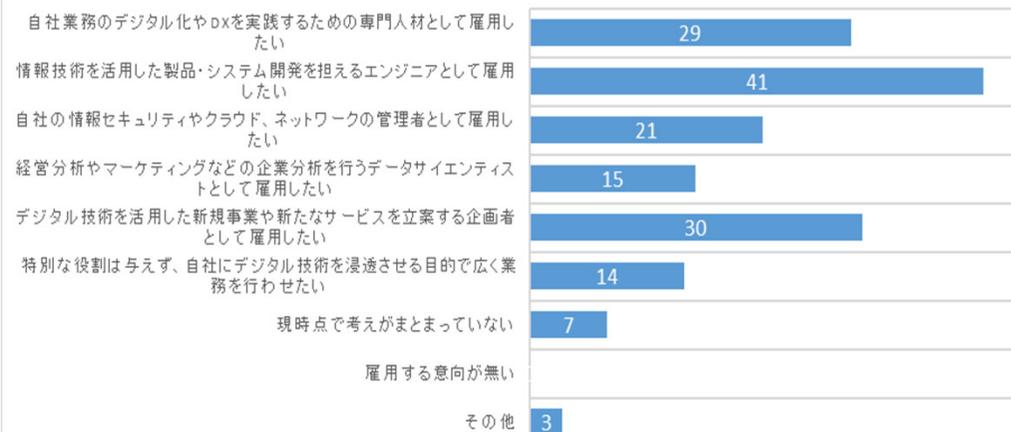
1) 大卒者の求人・採用状況（設問6）は「毎年求人しており、採用実績も毎年ある」企業が26件（41.9%）と最も割合が高く、採用実績の有無に関わらず毎年求人を行っている企業の合計数は46件（74.2%）であった。

2) 企業におけるデジタル人材の役割や雇用の考え方（設問8）については、「システム開発を担えるエンジニアとして雇用したい」が41件と最も多かった。次いで「デジタル技術の新規事業等の企画者として雇用したい」が30件、「自社業務をDXする専門人材として雇用したい」が29件であった。

大卒者の求人・採用状況



企業の想定するデジタル人材の役割



調査結果概要③

3) 今後10年間のデジタル人材採用の予定（設問9）は、回答があった企業の平均値で24.5人、中央値は10人であった。回答数の合計人数は1,345人であり、単年度平均を算出すると1年での採用予定者数の合計は134.5人であった。

NO	回答数値(実数)	件数	NO	回答数値(実数)	件数
(1)	1人	4	(8)	30人	5
(2)	2人	1	(9)	35人	1
(3)	3人	5	(10)	40人	2
(4)	4人	1	(11)	50人	5
(5)	5人	9	(12)	100人	2
(6)	10人	12	(13)	300人	1
(7)	20人	7	(14)	未回答	7

○総数	
合計	1,345 人
平均値	24.5 人
中央値	10.0 人
○単年度平均	
単年度の採用見込み	134.5 人
1社当たりの単年度平均	2.4 人

4) 大卒者の求人・採用状況とデジタル人材の採用予定をクロス集計したところ、

①毎年求人を行っている企業の合計人数は1,263人（単年度平均126.3人）

②毎年求人を行い、採用実績も毎年ある企業の合計人数は534人（単年度平均53.4人）

であり、大卒求人を行っている県内企業の採用規模は本学部の定員（100名）を上回っている。

「大卒者の求人・採用状況」と「デジタル人材の採用見込み(今後10年)」のクロス集計表

	1人	2人	3人	4人	5人	10人	20人	30人	35人	40人	50人	100人	300人	未回答	計	合計人数	単年度平均
毎年求人しており、採用実績も毎年ある				1	2	6	3	4		2	2	1		5	26	534	53.4
毎年求人しているが、採用実績が無い年もある	1		2		1	1	4	1	1		2	1			14	367	36.7
毎年求人しているが、直近3年間で採用実績が無い	2				2						1		1		6	362	36.2
求人する年もあれば、しない年もある		1	1		4	2								2	10	45	4.5
求人をしていない	1		2				3								6	37	3.7
計	4	1	5	1	9	12	7	5	1	2	5	2	1	7	62	1345	134.5

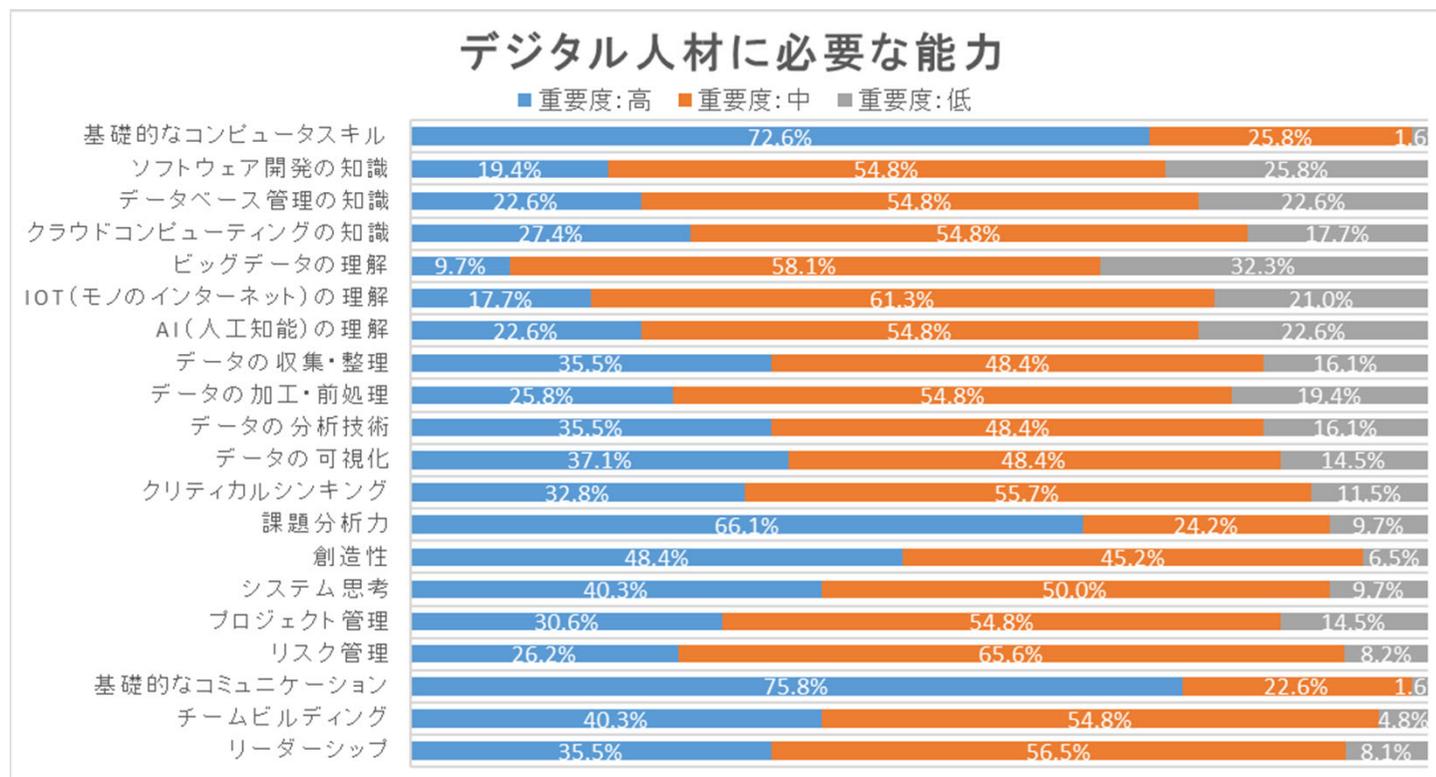
	合計人数	単年度平均
①毎年求人を行っている企業の合計	1263	126.3
②毎年求人を行い、採用実績も毎年ある企業の合計	534	53.4

調査結果概要④

(3) デジタル人材に求める能力

1) 企業がデジタル人材に求める能力（設問10）については、「重要度：高」が多かった項目順に以下のとおりであった。

- ①基礎的なコミュニケーション（75.8%）
- ②基礎的なコンピュータスキル（72.6%）
- ③課題分析力（66.1%）
- ④創造性（48.4%）
- ⑤システム思考（40.3%）
- ⑤チームビルディング（40.3%）
- ⑦データの可視化（37.1%）

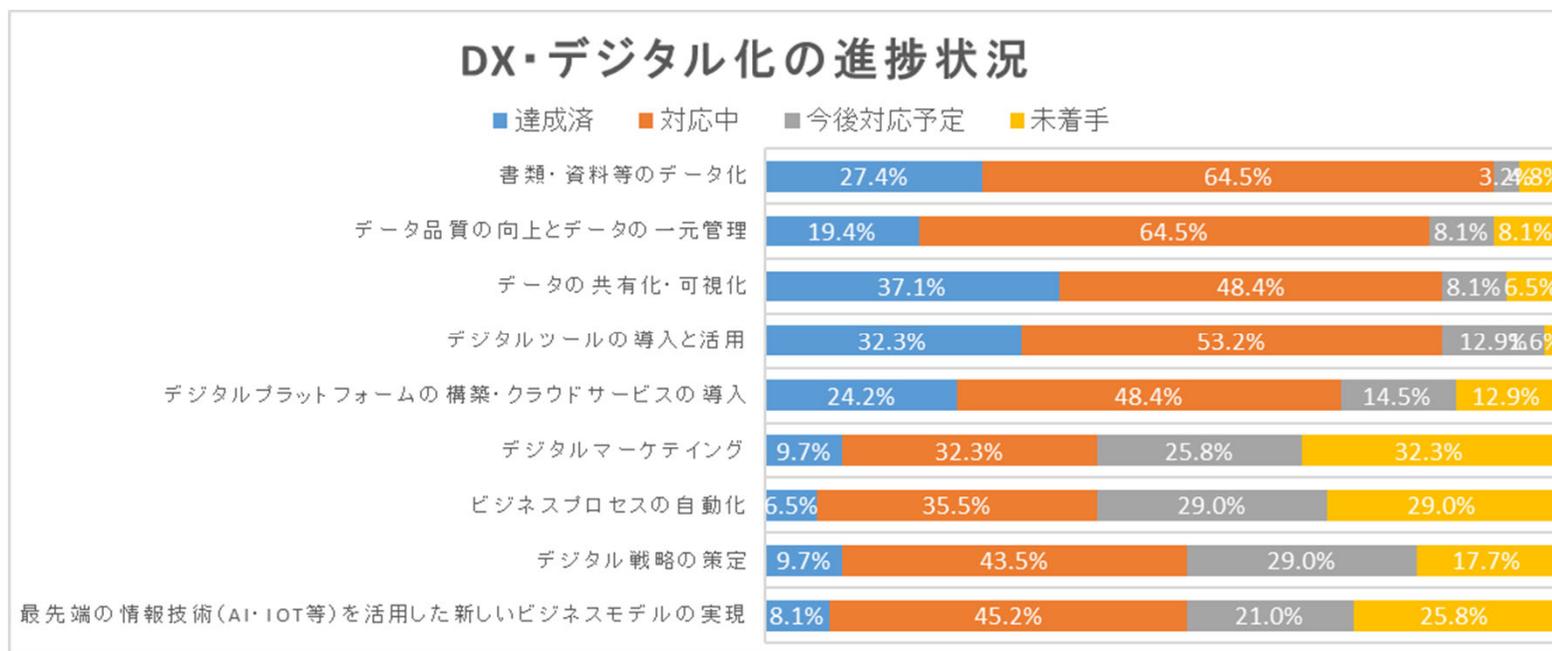


調査結果概要⑤

(4) DXやデジタル化への取組状況

1) 県内企業のDXやデジタル化への取組状況（設問12）は「達成済」「対応中」を含めると、「書類・資料等のデータ化」や「データの共有化・可視化」、「デジタルツールの導入と活用」などの一般的にデジタイゼーションと呼ばれる取り組みは、8割程度の企業で進んでいることが分かる。

2) 一方「デジタルマーケティング」や「ビジネスプロセスの自動化」、「最先端技術を活用した新しいビジネスモデルの実現」は4割～5割の進捗に留まっていることから、デジタイゼーション（業務・製造プロセスのデジタル化）やDX（ビジネスモデルの変革）の実現や変遷は、多くの企業が発展途上であると言える。

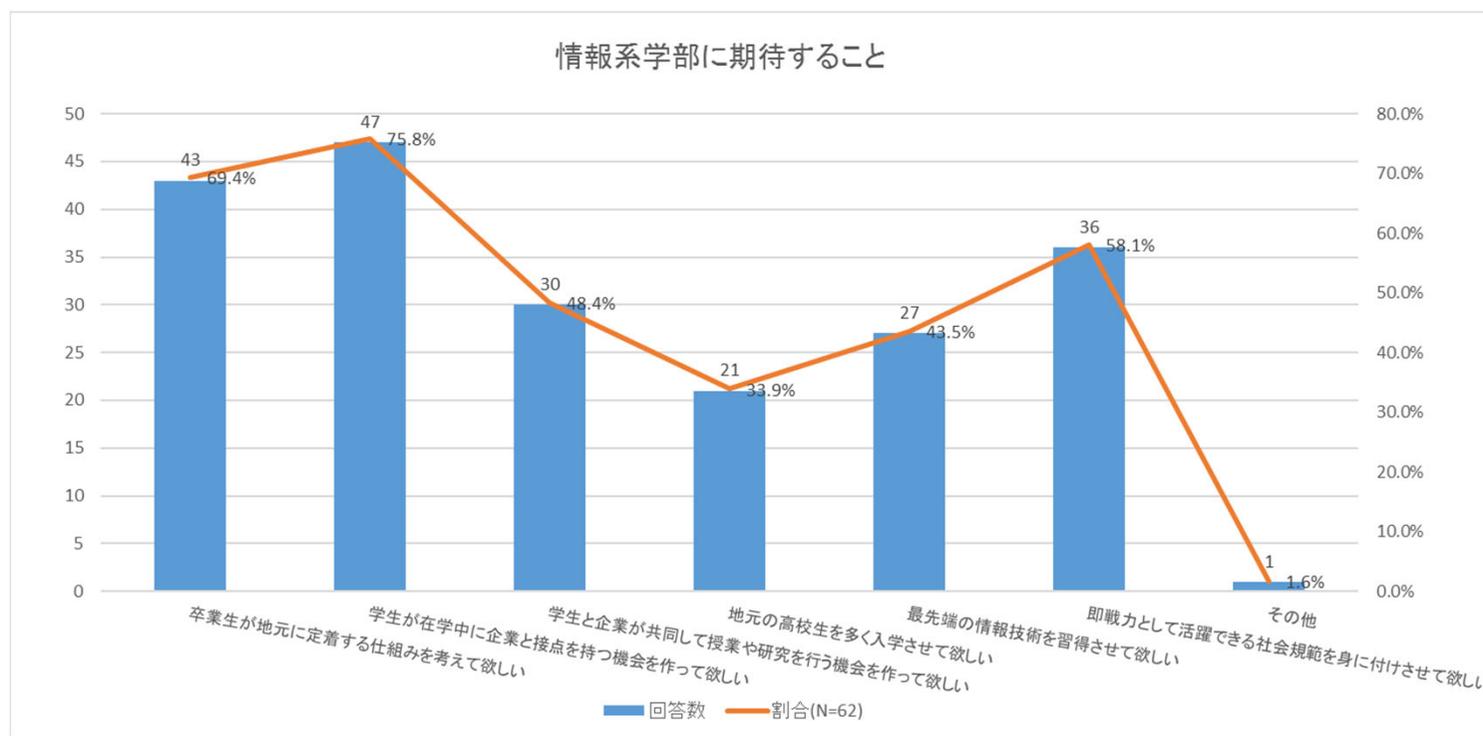


調査結果概要⑥

(5) 秋田大学情報系学部に期待すること

1) 県内企業が本学部に期待すること（設問13）は、「卒業生が地元に着する仕組みを考えて欲しい」や「学生が在学中に企業と接点を持つ機会を作って欲しい」が高く（共に7割程度）、次いで「即戦力として活躍できる社会規範を身に付けさせて欲しい」（6割程度）が高かった。

2) 自由記述では、「地元への就職を希望する内容（4件）」や「コミュニケーション能力や自主性を身に付けさせて欲しい（2件）」などの意見があった。また、「情報学を仕事に取り入れる意義の教育」や「DXで地域課題の解決」などといった要望もあった。



調査結果まとめ

1) デジタル人材の潜在需要

大卒求人を実施している企業の10年スパンでの採用見込み数から、1年に100人規模の需要があることが分かり、本学が想定している入学定員（100名）の需要はあるものと考えられる。

2) 地域のデジタル化促進に資する人材の供給

県内企業のデジタル化への取組状況は、デジタルライゼーションやDXに相当する項目への着手状況が発展途上であった。それに伴い、デジタル人材に求める能力では、ビッグデータやAIなどの専門技術よりも一般的なコンピュータスキルやコミュニケーション能力の需要が高い傾向にあった。一方で、本学部に期待することでは、最先端技術の習得を望む声が4割以上あることから、調査を行った現時点では一般的なコンピュータスキルの需要が高いものの、この数年間で企業のデジタル化が進むにつれて高度な情報技術を活用できる人材の需要が高まることが予想できる。

本学のカリキュラムは、情報学やデータサイエンスに関する知識を幅広く学びつつ、研究対象とする応用分野における専門、さらにPBL教育における企業等の課題解決型授業等を通じて実践力やコミュニケーション力も習得させることから、デジタル人材に求める能力（上記（3）P.5に記載）に対応することができる人材を養成する教育課程であると言える。

3) 地元企業等との連携の重要性

情報系学部には、情報技術とデータサイエンスを活用して社会課題を解決し、新たな価値を創造できるデジタル人材の育成が求められている。地元企業のニーズ調査を行った今回の結果から、情報学・データサイエンスに関する知識や技能を有する人材を育成することに加え、その人材が地元において即戦力として活躍できる仕組みづくりが求められていることから、産学官連携による授業や実習、PBL等を通じて地元企業の業務内容やその魅力等の理解を深めるカリキュラムの効果的な運用が重要であることが確認できた。

※PBL 課題解決型学習（Project Based Learning）知識の暗記などのような受動的な学習ではなく、自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法のこと。

【秋田大学】秋田県内企業のデジタル人材に関するアンケート調査 集計表

●基本情報(回答企業等の属性)

- 1 貴社・貴団体の企業等名をご回答ください。(調査結果のご連絡時に使用します)
- 2 ご連絡先のメールアドレスをご回答ください。(調査結果のご連絡時に使用します)
- 3 アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度を教えてください。

NO	選択肢	回答数	割合(N=62)
(1)	採用の決定権があり、選考に関わっている	29	46.8%
(2)	採用の決定権はないが、選考に関わっている	25	40.3%
(3)	採用時には直接関わらず、情報や意見を収集、提供する立場にある	8	12.9%
(4)	その他	0	0.0%

- 4 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(複数選択可)

NO	選択肢	回答数	割合(N=62)
(1)	建設業	3	4.8%
(2)	製造業	10	16.1%
(3)	電気・ガス・熱供給・水道業	1	1.6%
(4)	情報通信業	38	61.3%
(5)	金融・保険業	1	1.6%
(6)	不動産業	1	1.6%
(7)	卸売・小売業	5	8.1%
(8)	飲食・宿泊業	0	0.0%
(9)	運輸業	0	0.0%
(10)	農・林・漁・鉱業	0	0.0%
(11)	複合サービス業	1	1.6%
(12)	サービス業	5	8.1%
(13)	公務	3	4.8%
(14)	医療・福祉	2	3.2%
(15)	その他	2	3.2%

(その他の詳細)

- ・コンサルティング業
- ・経済団体

- 5 本アンケートは「秋田県情報産業協会」「秋田デジタルイノベーション推進コンソーシアム」の加盟企業・団体様を中心に回答をお願いしております。
貴社・貴団体の加盟状況を教えてください。(複数選択可)

NO	選択肢	回答数	割合(N=62)
(1)	秋田県情報産業協会に加盟している	24	38.7%
(2)	秋田デジタルイノベーション推進コンソーシアムに加盟している	39	62.9%
(3)	どちらにも加盟していない	14	22.6%

●企業の採用状況・採用意向

6 貴社・貴団体では、大卒者(4年制大学)の求人・採用は行っていますか？

NO	選択肢	回答数	割合(N=62)
(1)	毎年求人しており、採用実績も毎年ある	26	41.9%
(2)	毎年求人しているが、採用実績が無い年もある	14	22.6%
(3)	毎年求人しているが、直近3年間で採用実績が無い	6	9.7%
(4)	求人する年があれば、しない年もある	10	16.1%
(5)	求人をしていない	6	9.7%

7 大卒者(4年制大学)の採用で課題と感じていることを教えてください。(複数選択可)

NO	選択肢	回答数	割合(N=46)
(1)	応募者を集めることが難しい	36	78.3%
(2)	秋田県出身者(秋田県在住者を含む)を集めることが難しい	23	50.0%
(3)	採用したい人材が集まらない	23	50.0%
(4)	選考辞退・面接キャンセルが多い	10	21.7%
(5)	内定辞退が多い	12	26.1%
(6)	早期離職が多い	6	13.0%
(7)	フォローアップや研修等の方法が分からない	2	4.3%
(8)	課題と感じていることは無い	1	2.2%
(9)	その他	2	4.3%

(その他の詳細)

- ・各イベントに出展する際、こういった採用ツール・機会であればより興味を持ってもらえるか？
- ・令和5年に法人設立のためまだ実績がない

8 秋田大学では、企業等でDXを実践できるデジタル人材を養成する情報系学部の設置を検討しておりますが、貴社・貴団体でのデジタル人材の役割や雇用の考え方について、当てはまるものを教えてください。(複数選択可)

NO	選択肢	回答数	割合(N=62)
(1)	自社業務のデジタル化やDXを実践するための専門人材として雇用したい	29	46.8%
(2)	情報技術を活用した製品・システム開発を担えるエンジニアとして雇用したい	41	66.1%
(3)	自社の情報セキュリティやクラウド、ネットワークの管理者として雇用したい	21	33.9%
(4)	経営分析やマーケティングなどの企業分析を行うデータサイエンティストとして雇用したい	15	24.2%
(5)	デジタル技術を活用した新規事業や新たなサービスを立案する企画者として雇用したい	30	48.4%
(6)	特別な役割は与えず、自社にデジタル技術を浸透させる目的で広く業務を行わせたい	14	22.6%
(7)	現時点で考えがまとまっていない	7	11.3%
(8)	雇用する意向が無い	0	0.0%
(9)	その他	3	4.8%

(その他の詳細)

- ・ICTを活用した製品・システム等の営業およびカスタマーエンジニアとして雇用したい
- ・企業のデジタル化やDXを推進するためのコンサルタントとして雇用したい
- ・デジタル特化・専門の仕事ではなく、本業を行った上で、本業にデジタルをどう活かしていくか

9 今後10年間でデジタル人材を何人程度採用する予定ですか？※既存の採用者をデジタル人材に置き換える場合や新たな部署を立ち上げる際の増員も含めてご回答ください。

NO	回答数値(実数)	件数	NO	回答数値(実数)	件数
(1)	1人	4	(8)	30人	5
(2)	2人	1	(9)	35人	1
(3)	3人	5	(10)	40人	2
(4)	4人	1	(11)	50人	5
(5)	5人	9	(12)	100人	2
(6)	10人	12	(13)	300人	1
(7)	20人	7	(14)	未回答	7

○総数

合計	1,345 人
平均値	24.5 人
中央値	10.0 人

○単年度平均

単年度の採用見込み	134.5 人
1社当たりの単年度平均	2.4 人

●デジタル人材に求める能力

10 以下に示す項目は、デジタル人材がDXを実践するために必要とされる能力の一例です。
貴社・貴団体において重要視する度合いを、それぞれの中から3段階で選択してください。

NO	項目	上段：回答数、下段：割合		
		重要度：高	重要度：中	重要度：低
(1)	基礎的なコンピュータスキル	45	16	1
		72.6%	25.8%	1.6%
(2)	ソフトウェア開発の知識	12	34	16
		19.4%	54.8%	25.8%
(3)	データベース管理の知識	14	34	14
		22.6%	54.8%	22.6%
(4)	クラウドコンピューティングの知識	17	34	11
		27.4%	54.8%	17.7%
(5)	ビッグデータの理解	6	36	20
		9.7%	58.1%	32.3%
(6)	IoT(モノのインターネット)の理解	11	38	13
		17.7%	61.3%	21.0%
(7)	AI(人工知能)の理解	14	34	14
		22.6%	54.8%	22.6%
(8)	データの収集・整理	22	30	10
		35.5%	48.4%	16.1%
(9)	データの加工・前処理	16	34	12
		25.8%	54.8%	19.4%
(10)	データの分析技術	22	30	10
		35.5%	48.4%	16.1%
(11)	データの可視化	23	30	9
		37.1%	48.4%	14.5%
(12)	クリティカルシンキング	20	34	7
		32.8%	55.7%	11.5%
(13)	課題分析力	41	15	6
		66.1%	24.2%	9.7%
(14)	創造性	30	28	4
		48.4%	45.2%	6.5%
(15)	システム思考	25	31	6
		40.3%	50.0%	9.7%
(16)	プロジェクト管理	19	34	9
		30.6%	54.8%	14.5%
(17)	リスク管理	16	40	5
		26.2%	65.6%	8.2%
(18)	基礎的なコミュニケーション	47	14	1
		75.8%	22.6%	1.6%
(19)	チームビルディング	25	34	3
		40.3%	54.8%	4.8%
(20)	リーダーシップ	22	35	5
		35.5%	56.5%	8.1%

11 前問の項目の中で、特に重視するものを3つまで選択してください。

NO	選択肢	回答数	割合(N=62)
(1)	基礎的なコンピュータスキル	27	43.5%
(2)	ソフトウェア開発の知識	12	19.4%
(3)	データベース管理の知識	3	4.8%
(4)	クラウドコンピューティングの知識	5	8.1%
(5)	ビッグデータの理解	1	1.6%
(6)	IoT(モノのインターネット)の理解	8	12.9%
(7)	AI(人工知能)の理解	9	14.5%
(8)	データの収集・整理	5	8.1%
(9)	データの加工・前処理	0	0.0%
(10)	データの分析技術	5	8.1%
(11)	データの可視化	6	9.7%
(12)	クリティカルシンキング	9	14.5%
(13)	課題分析力	21	33.9%
(14)	創造性	19	30.6%
(15)	システム思考	8	12.9%
(16)	プロジェクト管理	3	4.8%
(17)	リスク管理	2	3.2%
(18)	基礎的なコミュニケーション	27	43.5%
(19)	チームビルディング	7	11.3%
(20)	リーダーシップ	9	14.5%

●DXやデジタル化への取組状況

12 以下の項目は、DXやデジタル化の進捗を可視化するために到達目標を定めたものです。
貴社・貴団体の現状での達成度(達成済・対応中・今後対応予定・未着手)を教えてください。

NO	項目	上段:回答数、下段:割合			
		達成済	対応中	今後対応予定	未着手
(1)	書類・資料等のデータ化	17	40	2	3
		27.4%	64.5%	3.2%	4.8%
(2)	データ品質の向上とデータの一元管理	12	40	5	5
		19.4%	64.5%	8.1%	8.1%
(3)	データの共有化・可視化	23	30	5	4
		37.1%	48.4%	8.1%	6.5%
(4)	デジタルツールの導入と活用	20	33	8	1
		32.3%	53.2%	12.9%	1.6%
(5)	デジタルプラットフォームの構築・クラウドサービスの導入	15	30	9	8
		24.2%	48.4%	14.5%	12.9%
(6)	デジタルマーケティング	6	20	16	20
		9.7%	32.3%	25.8%	32.3%
(7)	ビジネスプロセスの自動化	4	22	18	18
		6.5%	35.5%	29.0%	29.0%
(8)	デジタル戦略の策定	6	27	18	11
		9.7%	43.5%	29.0%	17.7%
(9)	最先端の情報技術(AI・IoT等)を活用した新しいビジネスモデルの実現	5	28	13	16
		8.1%	45.2%	21.0%	25.8%

●秋田大学情報系学部に期待すること

- 13 秋田大学では、情報技術やデータサイエンスを体系的に教育する情報系学部を令和7年4月に設置することを目標に準備を進めております。
 本学部に期待する内容を教えてください。(複数選択可)

NO	選択肢	回答数	割合(N=62)
(1)	卒業生が地元に着住する仕組みを考えて欲しい	43	69.4%
(2)	学生が在学中に企業と接点を持つ機会を作って欲しい	47	75.8%
(3)	学生と企業が共同して授業や研究を行う機会を作って欲しい	30	48.4%
(4)	地元の高校生を多く入学させて欲しい	21	33.9%
(5)	最先端の情報技術を習得させて欲しい	27	43.5%
(6)	即戦力として活躍できる社会規範を身に付けさせて欲しい	36	58.1%
(7)	その他	1	1.6%

(その他の詳細)

- ・コミュニケーション能力、プレゼン能力を伸ばしてほしい。
- 補助事業などの申請で使用するような文章能力を指導してほしい。
- ネットワークからの情報収集の方法やリスク管理を徹底的に身に付けて欲しい。

- 14 その他、本学部に対するご意見等がございましたら、以下にご記載ください。

NO	回答(自由記述)
(1)	地元企業として採用意欲はマンマンですので貴学部には超絶期待しております。
(2)	学生の方々が、秋田の企業に向くような仕組み(企業側との連携等も)を構築し、地元企業への就職者が増えていくことを期待します。
(3)	情報系を学ぶことが、どのようにして仕事として成り立つかを意識した対応方を考えられるように。
(4)	秋田県の課題ひいては農業、漁業、森林などの地方の課題をDXで課題解決できるような、取り組みを期待しています。
(5)	情報系学部設置について、大変期待をしております。
(6)	昨今のIT業界に置きましてはコミュニケーション能力を多分に必要としています。弊社に於いては技術的な部分に関しては社内で教育をしていく土壌がございます。よって、自身の考えを的確に伝え、相手の要望を十二分にくみ取れるコミュニケーション能力を身に付けられる環境を構築し、教育をして頂く事を希望いたします。
(7)	即戦力を欲しいと考えておりますが、一般的に就職した企業の業務内容によって即戦力かどうかは変わる為、分からない事を自分で調べて早く解決するような能力を身に付けさせて欲しい。 また、就職先があるのか無いのかで県外への若者の流出を防ぐことに繋がる為、もっと県内のIT企業が日本中で仕事ができるよう支援してもらい、若く知識もある人材が県内のIT企業で活躍できるような環境になるよう尽力して欲しい。
(8)	現在、弊社にて秋田大学教育学部と地域連携ゼミを行っておりますが、同様に新しくできる情報系学部との連携ゼミ(連携ゼミと限らず何らかの形でも)として、弊社のIT担当が協力・支援ができるのではと勝手ながら思った次第です。機会がございましたら意見交換させていただけますと幸いです。何卒よろしくお願い致します。
(9)	秋田大学でのデジタル人材育成の方針については、当社としても連携を強化し多くのデジタル人材の輩出に貢献したいと考えておりますので、今後も何卒宜しくお願い致します。
(10)	今後DXが進んでいく中では、企業からの期待が高い学部だと思います。弊社も微力ながらお手伝いできればと考えます。
(11)	時間にとらわれずに成果を上げる為には何が必要かを教えてほしい。成果を上げる、実績を上げる稼ぎ出す為には何を行うか、稼ぐことの意味を教えてやってほしい。